

令和7年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(令和6年度対象)

令和7年11月

深谷市教育委員会

目 次

1	趣 旨	1
2	点検評価の目的	1
3	点検評価の対象及び方法	2
4	第3期深谷市教育振興基本計画の施策体系	3
5	点検評価表及び最重点事業評価表、重点事業評価表	
	I 確かな学力と自立する力の育成	
(1)	生きる力の基礎を育む幼児教育の推進	4
(2)	未来を切り拓くための確かな学力の育成	6
(3)	郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進	8
(4)	時代の変化に対応する教育の推進	10
(5)	夢を育み志を実現するキャリア教育の推進	12
(6)	多様なニーズに応じた特別支援教育の推進	14
	II 豊かな心と健やかな体の育成	
(1)	まごころと思いやりを育む教育の推進	16
(2)	いじめ・不登校の防止	18
(3)	生徒指導の充実	20
(4)	人権を尊重した教育の推進	22
(5)	健康の保持増進	24
(6)	体力の向上と学校体育活動の推進	26
	III 地域に信頼される学校教育の推進	
(1)	信頼される教職員の育成	28
(2)	学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり	30
(3)	子供たちの安全・安心の確保	32
(4)	学習環境の整備・充実	34

IV	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	
(1)	家庭の教育力向上に向けた支援	36
(2)	家庭・地域・学校が協働する教育体制の整備	38
V	生涯学習の推進	
(1)	市民のニーズに応える生涯学習の支援	40
(2)	生涯学習施設の整備・充実	42
(3)	図書館サービスの充実	44
VI	スポーツ・レクリエーションの推進	
(1)	多様な主体へのスポーツ・レクリエーション機会の創出	46
(2)	生涯スポーツの推進	48
(3)	スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実	50
VII	郷土の歴史・文化の継承と活用	
(1)	郷土にゆかりのある偉人を生かした取組の推進	52
(2)	深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用	54
(3)	文化芸術活動の振興	56
6	意見・提言のまとめ	58
7	むすびに	63

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、全ての教育委員会は、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見の活用を図り、点検及び評価（以下「点検評価」という。）を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の目的

この点検評価は、深谷市教育委員会が決定する立志と忠恕の深谷教育プラン（以下「第3期深谷市教育振興基本計画」という。）に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックをし、市議会に報告するものです。これにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

3 点検評価の対象及び方法

本市教育行政の基本施策は、令和5年3月に策定された第3期深谷市教育振興基本計画に位置づけられています。

このため、第3期深谷市教育振興基本計画に位置づけられた27施策（中項目）を評価単位として、令和6年度の実績について点検評価を実施しました。

点検評価表のうち、総合評価は、「SABC」評価とし、区分の目安として、

S：計画以上に進んでいる

A：ほぼ計画通りに進んでいる。

B：あまり進んでいない。

C：まったく進んでいない。

としました。

この区分の補足説明として、「課題」「評価コメント」欄を設けるとともに、第3期深谷市教育振興基本計画において各施策に設定されている「成果指標」の欄を設け、令和3年度からの実績値の推移を成果指標の評価で表しました。


また、各点検評価表に最重点事業評価表及び重点事業評価表を添付し、各施策における令和6年度の重点事業及び評価を示しています。

さらに、教育委員及び教育に関し学識を有する方（以下「学識経験者」という。）の御意見や御提言の主なものを施策ごとにまとめ、巻末に「意見・提言表」に示しています。

第3期深谷市教育振興基本計画 施策体系

基本目標（大項目）	施策（中項目）	点検評価表作成課 (評価表取りまとめ課)	関連課	
I 確かな学力と自立する力の育成	1 生きる力の基礎を育む幼児教育の推進	教育総務課	教育施設課 学校教育課	1
	2 未来を切り拓くための確かな学力の育成	学校教育課	—	2
	3 郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進	学校教育課	—	3
	4 時代の変化に対応する教育の推進	学校教育課	—	4
	5 夢を育み志を実現するキャリア教育の推進	学校教育課	—	5
	6 多様なニーズに応じた特別支援教育の推進	学校教育課	—	6
II 豊かな心と健やかな体の育成	1 まごころと思いを育む教育の推進	学校教育課	—	7
	2 いじめ・不登校の防止	学校教育課	—	8
	3 生徒指導の充実	学校教育課	—	9
	4 人権を尊重した教育の推進	学校教育課	—	10
	5 健康の保持増進	学校教育課	教育総務課	11
	6 体力の向上と学校体育活動の推進	学校教育課	生涯学習スポーツ振興課	12
III 地域に信頼される学校教育の推進	1 信頼される教職員の育成	学校教育課	—	13
	2 学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり	学校教育課	生涯学習スポーツ振興課	14
	3 子供たちの安全・安心の確保	学校教育課	—	15
	4 学習環境の整備・充実	教育施設課	教育総務課 学校教育課	16
IV 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	1 家庭の教育力向上に向けた支援	生涯学習スポーツ振興課	—	17
	2 家庭・地域・学校が協力する教育体制の整備	生涯学習スポーツ振興課	学校教育課	18
V 生涯学習の推進	1 市民のニーズに応える生涯学習の支援	生涯学習スポーツ振興課	—	19
	2 生涯学習施設の整備・充実	生涯学習スポーツ振興課	図書館	20
	3 図書館サービスの充実	図書館	—	21
VI スポーツ・レクリエーションの推進	1 多様な主体へのスポーツ・レクリエーション機会の創出	生涯学習スポーツ振興課	—	22
	2 生涯スポーツの推進	生涯学習スポーツ振興課	—	23
	3 スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実	生涯学習スポーツ振興課	—	24
VII 郷土の歴史・文化の継承と活用	1 郷土にゆかりのある偉人を生かした取組の推進	文化振興課	渋沢栄一記念館	25
	2 深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用	文化振興課	—	26
	3 文化芸術活動の振興	文化振興課	—	27

5 点検評価結果

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成		I - 1					
施策名	生きる力の基礎を育む幼児教育の推進	点検評価表 作成課	教育総務課				
施策の方向性	<p>○市立幼稚園を再編し、質の高い幼児教育を推進する。</p> <p>○幼児の発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図り、小学校とのなめらかな接続を推進する。</p> <p>○深谷東子育て支援センターなどを拠点とした、未就学児に対しての子育て支援を推進する。</p>						
施策に関連する 主な取組	<p>○質の高い幼児教育の推進</p> <p>○特別支援教育等の体制整備</p> <p>○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進</p> <p>○深谷東子育て支援センターを活用した子育て支援の充実</p>						
指標名	幼稚園教諭に対して行う研修の回数						
指標の説明	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値
成果指標 幼児教育の推進にとって重要な役割を担う幼稚園教諭に対して市教育委員会 が実施する研修の回数	10回	12回	12回	21回	-	-	12回
	基準値 (令和3年度)	10回			目標値 (令和9年度)	12回	
成果指標の 評価	(順調) : 目標値に向けて順調に推移している						
課題	・市内の幼児の数が減少傾向にある中で、質の高い幼児教育を効率的に提供する必要がある。						
評価コメント	・幼稚園教諭に対して研修を実施し、質の高い幼児教育が提供できるよう、教諭の資質向上を図ることができている。						
総合評価	<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	幼稚園・こども館複合施設(幼稚園)の建設	担当課	教育施設課
概要	(仮称)深谷市立こども館と複合化される新設幼稚園の建設工事を行う。		
令和6年度 の実績	【建設工事請負契約の相手方の決定】 公平性、機会均等、透明性及び低価格を確保し、建設工事の契約の相手方を決定する。 ○積算基準に基づく予定価格の設定 ○一般競争入札の実施 ○入札参加資格の確認 ○市議会による契約締結の議決 【契約に基づく適切な履行の確認】 工期内に設計図書に合致する工事を精度良く、かつ安全に完成するよう受注者を監督する。 ○施工計画、材料選定等の承諾 ○段階確認、材料検査等の実施 ○定例会議での進捗率の確認 ○安全指導の実施		
	指標名	実績値	指標別コメント
	建設工事の進捗遅延が生じた回数	0回	毎週、進捗率の確認を行っているが、計画の進捗率を下回ることはなかった。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	引き続き、関係課と調整を図りながら、令和8年4月の新設幼稚園の開園に向けて、建設工事を進めていく。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
特別支援教育等の 体制整備	特別な支援を要する幼児への支援等、市立幼稚園として求められる役割を果たすための運営体制の充実を図る。 ○担任補助の人数 15人	担任補助等を任用し、特別な支援を要する幼児に対し十分なサポート体制を整備できた。また、子育てに関する相談を受けた家庭に対し、専門的な知識を有する職員が対応できる体制が整備できた。	教育総務課
幼保小中連携の推進	幼保小中及び家庭や関係機関と連携して、子育ての目安「3つのめばえ」や深谷の子「6つの誓い」などの取組を推進する。 ○令和7年3月5日小学校全校に架け橋期のカリキュラムを配付	幼保小の架け橋プログラムの一環として幼保小で連携し、架け橋期のカリキュラムを作成し、小学校へ配付することで、幼児教育施設と小学校の連携を進めることができた。	教育総務課
就園前幼児教育支援事業	未就園児の親子等を対象にした子育て相談等の支援を深谷東子育て支援センターなどで行い、子育て支援を充実する。 ○令和6年度利用者数 8,987名	各種事業の実施により、子育てしやすい環境を整備することができた。	教育総務課

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

I-2

施策名		未来を切り拓くための確かな学力の育成				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に確かな学力を身に付けさせる。 ○児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組を支援する。 ○全ての子供たちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、「令和の日本型学校教育」を推進する。							
施策に関連する 主な取組		○「青淵学びの郷づくり」の推進 ○教科などの指導内容・指導方法の工夫・改善 ○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進 ○きめ細やかで質の高い指導の充実				○教育研究所の資源活用			
指標名		全国学力・学習状況調査の正答率において、県平均を上回った学校の割合							
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値	
成果指標	小学校	34.0%	45.0%	34.0%	31.6%	—	—	58.0%	
	中学校	30.0%	35.0%	40.0%	20.0%	—	—	55.0%	
	基準値 (令和3年度)	小学校	34.0%	➔			目標値 (令和9年度)	小学校	58.0%
	中学校	30.0%	中学校				55.0%		
成果指標の 評価	(不調): 基準値を下回っている。								
課題	・各学校における学力向上プロジェクトへの更なる取組 ・こころざし深谷教師塾への積極的な参加								
評価コメント	・毎月、市内全小・中学校で学力向上プロジェクト達成率100%を目指し、くり返し問題に取り組 み、基礎基本の定着や思考力・判断力を高めることができた。 ・市内県費教職員延べ426名がこころざし深谷教師塾に参加し、自らの指導法を振り返り、指導 力向上や授業改善に役立てた。								
総合評価	B		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない						

最重点事業評価表

最重点事業名	学力調査を活用したPDCAサイクルの確立	担当課	学校教育課
概要	毎月の学力向上プロジェクトにより、思考力・判断力・表現力等を高める問題等に取り組み、学習内容の定着を図る。		
令和6年度の実績	【学力向上プロジェクトへの取組】 ・市教委が、全国学力・学習状況調査の過去問や埼玉県学力・学習状況調査の類似問題から問題を作成・配布し、毎月、市内全小・中学校で取り組む。 ・毎月実施後、各学校が市教委に平均正答率の報告を行う。 ○学力調査の一部問題の正答率において、国と比べ市の正答率が6.7%高い結果であった。 ○深谷市の児童生徒の学力層において、学力下位層が少なく、学力中位層が多くなっている。 【学力調査結果をもとにした研修等の実施】 ・各学校での学力調査の結果分析方法について指導を行う。 ・深谷市学力向上担当者会議を年3回実施し、学力調査結果の分析・活用方法や学力向上に向けた良い取組を周知する。 ・各学校の学力向上に向けた取組について見届けを行う。 ○年2回の研修計画・実施報告の見届け ○深谷市学力向上担当者会議を年3回実施		
	指標名	実績値	指標別コメント
	全国学力・学習状況調査の正答率において、県平均を上回った学校の割合	小学校31.6% 中学校20.0%	小中学校ともに、前年度の実績値より下回った。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	2	小・中学校ともに成果指標は目標値を下回り、深谷市の正答率は、国や県と比べ、ほぼ同等かやや下回っている状況であった。しかし、中学校では、国・県の正答率を下回る部分が多くあり、学力向上プロジェクトを中心とした学力向上に向けた施策だけでなく、さらに学力向上の施策を進める必要があると捉えている。	
評価区分の考え方（1：現状継続 2：見直して継続 3：拡充・重点化 4：事業達成により終了 5：廃止を検討）			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
中学生検定サポート事業	生徒の学習意欲を高めるための英検や数検の費用を補助し、学力向上を図る。 ○英検3級以上取得率46%、数検4級以上相当取得率62%	生徒自身がこれまでの学習内容・技術がどこまで身についているかを把握でき、積極的に高いレベルの級にも挑戦しており、意欲を高めることができた。 数検は目標としていた、4級相当取得率50%を達成したことから、次年度以降新たな学力向上に資する取組を導入する。	学校教育課
授業力の向上	「こころざし深谷教師塾」において、力量の高い教員の授業から指導法を学ぶ機会を充実させる。 ○市内県費教職員延べ426名の参加	市内県費教職員の約半数にあたる教員が研修に参加し、自らの指導法を振り返り、授業改善・授業力向上に役立てることができた。	学校教育課
学習支援員等の充実	小学校に専科指導教員として教科支援エキスパートを、小中学校に学習支援員を配置し、学力向上を推進する。 ○小学校教科支援エキスパートの配置校数19校中19校配置(100%)	小学校教科支援エキスパートを小学校全校に配置することができた。 小学校教科支援エキスパートは、学習指導の面でも生徒指導の面でも必要である。	学校教育課

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

I-3

<p>施策名</p> <p>郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>学校教育課</p>					
<p>施策の方向性</p>		<p>○伝統と文化を尊重し、日本人としての誇りをもち、我が国と郷土深谷を愛する態度を養う。</p> <p>○国際理解教育を推進するとともに、小学校の外国語の授業を充実させるため、地域人材を活用するなど、質の高い外国語教育を推進する。また、中学校の英語教育の充実を図る。</p> <p>○帰国・外国人児童生徒などへの日本語指導など、学校や社会生活への適応を図るために必要な支援を行う。</p>							
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○伝統と文化を尊重する教育の推進</p>							
		<p>○国際性を育む教育の推進</p>							
		<p>○小学校段階からの質の高い外国語教育の推進</p>							
		<p>○帰国・外国人児童生徒などへの教育の充実</p>							
<p>指標名</p>		<p>英語検定3級以上取得率(中学3年生)</p>							
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>	
<p>英語検定3級以上を取得した市内公立 中学3年生の割合</p>		<p>43.6%</p>	<p>45.6%</p>	<p>41.4%</p>	<p>45.8%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>50.0%</p>	
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>43.6%</p>		<p>→</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>50.0%</p>
<p>成果指標の 評価</p>		<p>(順調) : 目標値に向けて順調に推移している</p>							
<p>課題</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ALT を効果的に活用し、授業の中で生徒が自分の考えや気持ちを述べる機会の充実 ・自分の意見に対し、理由を加えて書く練習の充実 ・ALT を活用した校内二次対策講座の実施 ・深谷市で行っている英検対策講座を継続して開催 							
<p>評価コメント</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・英語検定1次対策、2次対策を実施した。1次対策は141名の参加、2次対策は167名の参加であった。 ・3級以上取得者は533人であり、取得率は46%と、前年度と比較し、5ポイント上昇した。また、3級以上取得率が50%達成校は3校であった。 ・各中学校の担当者を対象に、担当者会議を実施し、英検3級以上取得率の高い学校の取組を市で共有し、各校で活用する。 							
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>					

最重点事業評価表

最重点事業名	ふるさと教育の推進		担当課	学校教育課
概要	フォーラムの実施等「ふるさと ふかや・渋沢学」を推進することにより、ふるさとを愛し、誇りに思う児童生徒を育成する。			
令和6年度の実績	【「ふるさと ふかや・渋沢学」フォーラム】 「ふるさと ふかや・渋沢学」フォーラムを開催し、各校におけるふるさと教育の取組や学びの成果について、共有することができた。 ○来場者数 1,677人 ○来場者満足度 89.5% 【ジュニアボランティアガイドの育成】 渋沢栄一翁の顕彰活動を通して、子供たちの地域貢献意識を養い、ふるさとを愛し、次代を担う自覚を持ったジュニアボランティアガイドを育成する。 ○小4～中2で13人 ○10月から8回実施(栄一翁関連施設)			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	ジュニアボランティアガイド育成人数	13人	ガイド養成講座及びガイドの実施時期を見極めるとともに、多くの観光客等と関わることができるよう実施について検討していく。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	郷土の偉人栄一翁を学んだ子供たちが、論語の里に訪れた見学者への解説員として活動する過程を通して、子供たちの地域貢献意識を養い、ふるさとを愛し、次代を担う自覚を育むことができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
国際化教育推進事業	各幼稚園、小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し、英語指導の充実を図り、国際性を育む教育を推進する。 ○全市立幼稚園、小・中学校に外国語指導助手(ALT)29名を配置し、幼稚園から小学校4年生は週1回、小学校5、6年生は週2回、中学校1～3年生は週に3回、ALTの授業を受けた。	全市立幼稚園・小・中学校にALTを配置したことで、児童生徒が毎週本物の英語に触れることができた。	学校教育課
外国語指導力向上事業	小学校に英語専科教員や英語アシスタントティーチャー(EAT)を配置し、学習意欲向上や質の高い授業づくりを推進する。 ○小学校(7校)に英語指導助手(EAT)5名を配置した。	児童一人ひとりの個に応じたきめ細やかな学習支援を行うことができた。	学校教育課
日本語指導職員配置事業	帰国・外国人児童生徒の学校生活への適応支援のため、就学相談を行うとともに、日本語指導員による日本語指導の充実を図る。 ○日本語指導を必要とする外国籍児童のために、市費日本語指導員(11名)を、小学校15校、中学校5校に配置した。	日本語支援が必要な児童生徒1人1人にきめ細やかな学習支援を行うことができた。	学校教育課

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

I - 4

施策名		時代の変化に対応する教育の推進				点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性		<p>○子供たちの科学技術に関する興味・関心を高め、豊かな科学的素養や思考力を育成する。</p> <p>○ICT機器を適切に活用し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力やプログラミング的思考を育成するとともに、情報モラルを醸成する。併せて、多様な人たちと協働しながら学ぶことで主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。</p> <p>○SDGsをはじめ、新たな社会的課題等に対応できる人材の育成に向けた教育を推進する。</p>								
施策に関連する 主な取組		○科学技術教育の推進								
		○情報教育の推進								
		○新たな社会的課題等に対応する教育の充実								
指標名		授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合								
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値		
成果指標	国の「学校における教育の 情報化の実態等に関する調査」 において、「授業中にICTを活用して 指導することができる」の調査項目に 「わりにはできる」「ややできる」と 回答した割合	小学校	92.2%	89.0%	96.0%	96.0%	-	-	100.0%	
		中学校	76.8%	81.0%	93.0%	94.2%	-	-	100.0%	
		基準値 (令和3年度)	小学校	92.2%	➔			目標値 (令和9年度)	小学校	100.0%
		中学校	76.8%	中学校				100.0%		
成果指標の 評価	(順調) : 目標値に向けて順調に推移している									
課題	・授業でICTを活用した場面が増えており、多くの授業でタブレット端末等を活用した授業が行われているが、教職員による差がある。									
評価コメント	・ICTを活用して指導を行っている割合は、高い水準を維持しており、1人1台端末の日常的な利活用が進められてきている。									
総合評価	A		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない							

最重点事業評価表

最重点事業名	渋沢 spirit in ふかや GIGAスクールの充実		担当課	学校教育課
概要	1人1台学習者用端末を文具のように用いた令和の学びの推進、充実を図る。			
令和6年度の実績	【情報教育の推進】 GIGAスクール構想に伴い児童生徒1人1台学習用端末とネットワーク環境の保守・整備を行った。 ○平時の授業における端末の利活用状況について「ほぼ毎日」の割合が、小学校73.0%、中学校76.0%			
	【学校業務のICT化】 全市立小・中学校において、指導要録と出席簿の電子化を実施した。 小・中学校の教職員を対象として、タブレットの操作・活用についての研修を行った。 ○指導要録と出席簿の電子化を実施している学校29校中29校(100%) ○タブレットの操作・活用に関する研修会を年間8回実施			
	指標名	実績値	指標別コメント	
平時の授業における端末の利活用状況について「ほぼ毎日」の割合	小学校73.0% 中学校76.0%	実態調査において県の実績値(小学校57.0%。中学校75.0%)を上回った。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	GIGAスクール構想に伴い、大容量高速通信ネットワーク環境を生かして、学習指導要領に対応した1人1台端末の利活用の推進に努めた。日常的に学習用端末の利活用が進むよう、引き続き推進と保守を適切に行っていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
理科支援員の配置	小学校の理科授業(特に観察・実験を中心に)を充実させることで、科学への探究心を育む。 ○市立全小学校に年間30回理科支援員を派遣	理科支援員が観察・実験を中心に理科の授業をサポートすることによって理科の授業の充実が図られている。	学校教育課
SDGsの理念に基づく教育の充実	学校教育全体をととして、環境教育、福祉教育等、社会的課題の解決に向けた態度育成に努める。 ○社会科や理科、総合的な学習の時間で扱っている	授業中心に扱っているが、学校研究課題に関連付けて扱う学校も増えてきた。	学校教育課

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

I-5

施策名		夢を育み志を実現するキャリア教育の推進				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性	<p>○小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を推進する。</p> <p>○将来働くことについて意欲や関心が持てるように、地域・企業などと一体となって、職場での体験活動の充実を図る。</p> <p>○経済的な支援を通じ、意欲と能力のある者が安心して学ぶことができる環境づくりを推進する。</p>								
	施策に関連する 主な取組	○発達段階に応じたキャリア教育の充実							
		○中・高の連携によるキャリア教育の推進							
		○教育における経済的支援の充実							
成果指標	指標名	「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合							
	指標の説明	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値	
	「将来の夢や目標をもっている」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合	小学校	85.5%	87.8%	89.2%	90.0%	-	-	93.0%
		中学校	79.7%	77.6%	78.8%	90.0%	-	-	83.0%
		基準値 (令和3年度)	小学校 85.5%	中学校 79.7%	➔		目標値 (令和9年度)	小学校 93.0%	中学校 83.0%
成果指標の評価	(順調)：目標値に向けて順調に推移している								
課題	<p>・小・中学校の各発達段階において、それぞれのキャリア教育の取組が行われているが、小・中学校の連携を図り、小中一貫の視点を持ち、工夫して取り組んでいく必要がある。</p> <p>・社会体験チャレンジにおける事業所の確保。</p>								
評価コメント	<p>・小学校17校、中学校10校で、将来に向けて志を立てる取組(1/2成人式や立志式等)を行うことができた。</p> <p>・中学校全校で社会体験チャレンジ事業を実施することができた。</p>								
総合評価	A		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる B: あまり進んでいない</p> <p>A: ほぼ計画通りに進んでいる C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

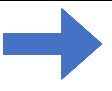
最重点事業名	小・中学校のキャリア教育の充実	担当課	学校教育課
概要	職場体験・立志式等を通して、児童生徒の夢や志を育む。		
令和6年度 の実績	【発達段階に応じたキャリア教育の充実】 社会科見学等、小学校の各発達段階で社会に向けて視野を広げる活動を実施した。また、小中学校それぞれの発達段階に合わせ、将来を見据え、自分の志を立てるような活動に取り組んだ。 ○社会科見学等の実施：小学校19校中19校 ○「1/2成人式」(名称変更の学校あり)を19校中17校実施 ○「立志式」(名称変更の学校あり)を10校中10校実施 【中・高の連携によるキャリア教育の推進】 中高連絡協議会により、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会を開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。 ○中高連絡協議会の開催回数：4回		
	指標名	実績値	指標別コメント
	「将来の夢や目標を持っている」児童生徒の割合	小学校87.9% 中学校79.8%	それぞれの発達段階に応じてキャリア教育が行われており、渋沢栄一翁の「立志の精神」に結びつくように意識した指導が行われている。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	今後、小・中学校のさらなる連携を図り、小中一貫の視点を持ち、工夫改善をしていながら、生涯に渡って夢や目標を持てる児童生徒の育成を図っていく。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
中学・高校間のなめらかな接続	生徒の適切な進路選択や中退防止に向け、中高連絡協議会を実施し、中高の連携強化を図る。 ○中高連絡協議会の開催回数：4回	中高連絡協議会の開催により、市内中学校出身の生徒に関する情報や本年度の入試情報について連携を図ることができた。	学校教育課

基本目標 I 確かな学力と自立する力の育成

I - 6

<p>施策名</p>	<p>多様なニーズに応じた特別支援教育の推進</p>				<p>点検評価表 作成課</p>	<p>学校教育課</p>		
<p>施策の方向性</p>	<p>○各学校において、特別な教育的支援が必要な児童生徒に対する就学相談・教育相談体制を充実する。 ○校種間のなめらかな接続や学年間の引継ぎが図れるよう、3年間をととした個別の教育支援計画や年度内における個別の指導計画の作成に努める。 ○一人一人の教育的ニーズを把握し、通常学級や通級指導教室・特別支援学級に加え、特別支援学校との連携を含めた支援体制の充実を図る。</p>							
<p>施策に関連する 主な取組</p>	<p>○特別支援教育体制の充実</p>							
<p></p>	<p>○就学支援・相談の充実</p>							
<p></p>	<p>○特別支援教育の視点に立った指導の充実</p>							
<p>指標名</p>	<p>通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の指導計画の作成率</p>							
<p>指標の説明</p>	<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>	
<p>通級に通っている児童生徒、特別支援学級の弾力的運用で支援をしている児童生徒、発達障害等の診断を受けている児童生徒のうち、個別の指導計画を作成している児童生徒の割合</p>	<p>82.5%</p>	<p>91.9%</p>	<p>92.0%</p>	<p>89.0%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>95.0%</p>	
<p></p>	<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>82.5%</p>		<p></p>		<p>目標値 (令和9年度)</p> <p>95.0%</p>	
<p>成果指標の 評価</p>	<p>(順調): 目標値に向けて順調に推移している</p>							
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する経験の浅い教員もいるため、特別支援教育コーディネーターを中心に児童生徒の困り感への支援・指導等を含め研修を充実するなど指導力の向上を図る必要がある。 ・障害のある児童生徒一人一人が幼・保、小、中、高となめらかな接続を図れるよう関係間での連携を一層図る必要がある。 ・個別の教育支援計画、教育指導計画について、作成の意図を周知するとともに、支援の充実に活かしていく。 							
<p>評価コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の教育的ニーズに合わせ、多様な学びの場(支援籍学習、通級指導教室など)の整備がなされてきている。 ・幼稚園・保育園への巡回相談や就学前相談を随時実施し、関係諸機関と連携することで、課題のある子供の早期発見・早期支援に繋げることができた。 ・発達支援アドバイザーの学校訪問により、特別支援学級担任の指導力向上に努めることができた。 ・特別支援補助員・インクルーシブ支援員を増員して配置できた。 ・就学支援委員会を年4回、小委員会を2回開催し、児童生徒の適切な就学の場の選択に繋がった。 							
<p>総合評価</p>	<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる B: あまり進んでいない</p>				<p>A: ほぼ計画通りに進んでいる C: まったく進んでいない</p>	

最重点事業評価表

最重点事業名	児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実		担当課	学校教育課
概要	特別な教育的ニーズに応じた学びの場の充実に向け、学習環境の整備を図る。			
令和6年度 の実績	【多様なニーズに応じた学びの場の充実】			
	【就学支援・相談の充実】			
	1. 就学支援委員会の開催 2. 巡回相談の実施(幼稚園、保育園、小・中学校) 3. 就学を迎える子供を持つ保護者のつどいの実施 ○年4回 ○93回 ○年2回			
【特別支援教育の視点に立った指導の充実】				
1. 特別支援教育コーディネーター研修会の開催 2. 特別支援教育担当者研修会の実施 3. 特別支援補助員・インクルーシブ支援員研修会の実施 ○2回 ○1回 ○1回				
	指標名	実績値	指標別コメント	
	教育的配慮が必要な児童生徒の個別の指導計画作成率	89%	個別の指導計画作成に係る支援により計画的に作成できた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	関係機関と連携を図りながら、幼稚園・保育園からの就学相談・支援を行い教育的ニーズに合わせた適切な就学に繋げることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
早期からの就学支援・就学相談の充実	教育・福祉の連携を生かし、早期からの就学支援・就学相談の充実を図る。 ○通級指導教室教室増設(深谷小・桜ヶ丘小・上柴中に1教室増設)	教育的ニーズに応じ環境整備ができた。	学校教育課
発達支援アドバイザーによる支援と支援籍学習の推進	発達支援アドバイザーを配置し、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の充実を図る。 支援籍学習の理解を広げ、積極的に推進する。 ○小学校57回、中学校23回 合計80回	個別の指導計画作成や発達課題のある児童生徒への支援について助言等行い、教職員の専門性の向上や特別支援教育の理解を図ることができた。	学校教育課

基本目標Ⅱ 豊かな心と健やかな体の育成

Ⅱ-1

<p>施策名 まごころと思いやりを育む教育の推進</p>		<p>点検評価表作成課</p>		<p>学校教育課</p>					
<p>施策の方向性</p>		<p>○特別の教科道徳の指導の充実を図るとともに地域の特色を生かした道徳教育やふるさと教育を推進する。 ○深谷の子「6つの誓い」の活用や、規律ある態度の調査結果を踏まえ、地域の特色を生かした体験活動の充実を図る。 ○学校における子供たちの豊かな読書活動を推進する。</p>							
<p>施策に関連する主な取組</p>		<p>○道徳教育の充実</p>							
		<p>○深谷の子「6つの誓い」の推進</p>							
		<p>○読書活動の推進</p>							
<p>指標名</p>		<p>深谷の子「6つの誓い」達成率</p>							
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>	
<p>「夢に向かって努力する」、「毎日勉強する」、「たくさん挑戦、体験する」、「すすんであいさつする」、「脱いだくつをそろえる」、「心のこもったことばをつかう」の6項目を実践している児童生徒の割合</p>		<p>92.9%</p>	<p>90.6%</p>	<p>91.1%</p>	<p>91.7%</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>95.0%</p>	
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>92.9%</p>		<p>➡</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	
<p>成果指標の評価</p>		<p>(横ばい): 基準値に対し横ばい</p>							
<p>課題</p>		<p>・忠恕の心だけにとどまらず、立志も大切にするため、新たに「栄一翁みらい宣言」を実施した。今後は、作品募集に係る周知方法について検討していく。 ・学校司書研修の充実。また、児童生徒一人当たりの貸出冊数の増加を図り、読書習慣を形成する。</p>							
<p>評価コメント</p>		<p>・「栄一翁みらい宣言」の作品募集、まごころ訪問を積極的に行い、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。 ・こころざし読本及びふるさと先生の積極的な活用を図ることができた。</p>							
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる B: あまり進んでいない A: ほぼ計画通りに進んでいる C: まったく進んでいない</p>					

最重点事業評価表

最重点事業名	渋沢栄一翁こころざし読本の活用		担当課	学校教育課
概要	副読本の活用や「ふるさと先生」を派遣して、ふるさとを愛し、誇りに思う児童生徒を育成する。			
令和6年度の 実績	【道徳教育の充実】 渋沢栄一記念館資料解説員をはじめ、元校長等を「ふるさと先生」として派遣し、深谷市の地域の特色を生かした道徳教育の推進と道徳の時間の充実を図った。 ○「ふるさと先生」活用率 100% (小・中29校)			
	全小・中学校(29校)で「渋沢栄一翁 こころざし読本」をカリキュラムに取り入れて、「渋沢栄一翁 こころざし読本」の積極的な活用を図った。 ○「渋沢栄一翁 こころざし読本」年間指導計画への位置付け 100%			
		指標名	実績値	指標別コメント
	「ふるさと先生」活用率	100%	「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、「渋沢栄一翁こころざし読本」の活用により、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	渋沢栄一翁の生き方から学ぶ読本を活用するとともに、次代を担う人材を育成するために、「ふるさと先生」を派遣して、道徳教育の充実に努め、ふるさとを愛し、誇りに思う児童生徒を育成した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
深谷の子「6つの誓い」の推進	深谷の子「6つの誓い」の実践を奨励し、子供たちの学習習慣・生活習慣の形成を支援する。 ○「6つの誓い」の6項目で実践している児童生徒の割合91.7%	「夢に向かって努力する」、「毎日勉強する」、「たくさん挑戦、体験する」、「すすんであいさつする」、「脱いだくつをそろえる」、「心のこもった言葉をつかう」の6項目で実践している児童生徒の割合は91.7%で前年度より増加し、学習習慣・生活習慣の確立を図ることができた。	学校教育課
子供読書活動の推進	「ふるさと ふれあい 必読書50」等、子供たちがよい本に触れられる読書活動を支援する。 ○学校司書の配置100% (小・中29校)	学校司書研修会では、優れた取組等を共有することで、学校図書館や読書活動の充実を図ることを意図して、学校司書の取組レポートをもとにした協議や学校図書館の視察研修を実施した。	学校教育課

基本目標 II 豊かな心と健やかな体の育成

II-2

施策名		いじめ・不登校の防止				点検評価表作成課	学校教育課	
施策の方向性		<p>○深谷市いじめ問題対策連絡協議会などにおいて、関係機関と連携し、市全体としていじめ防止に取り組む。</p> <p>○不登校を未然に防止し、早期に対応するため、教育相談活動などの充実に努める。</p> <p>○中学校における不登校や、高校における中途退学を防ぐために、学校種間の連携を深める。</p>						
施策に関連する主な取組		○いじめ対策の推進						
		○不登校対策の推進						
		○小・中・高におけるなめらかな接続の推進						
指標名		不登校児童生徒のうち、様々なかたちで支援を受けることができる割合(小・中学校)						
指標の説明		令和3年度実績値	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度目標値	令和8年度目標値	令和9年度目標値
教育支援センターなど学校外の機関等で相談・指導を受けた、もしくは学校内において養護教諭やスクールカウンセラーなどによる専門的な相談・指導を受けた児童生徒の割合		80.9%	72.1%	67.5%	85.4%	-	-	85.0%
		基準値(令和3年度)		80.9%		→ 目標値(令和9年度)		85.0%
成果指標の評価		(順調): 目標値に向けて順調に推移している						
課題		<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる支援の充実や家庭訪問などアウトリーチによるつながり支援を充実させること。 ・長期欠席や不登校の児童生徒への取組や情報が、支援を必要としている家庭に届いていない現状がある。 ・不登校数の増加に対する具体的な対策を講じる必要がある。 						
評価コメント		<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援センター(いきいきスクール・いきいきナイトスクール・フリースペースえがお)から学校復帰というステップアップの流れが確立してきている。 ・令和4年度にすべての小中学校に校内教育支援センター(アプローチルーム)が設置されており、つながり支援をより充実させることができる。 ・関係各課に対し長期欠席や不登校傾向の児童生徒への支援等について情報を共有した。また、校長会でも周知することができた。 ・スクールソーシャルワーカーと連携を図り支援に向けた家庭訪問を行ったり、サービス情報を提供し、学校内外等の機関等へつなぐことができるようにしている。 ・不登校児童生徒は増加傾向であるが、成果指標の実績値(割合)も向上傾向であり、各関係機関によるつながり支援を充実させることができる。 ・新規不登校児童生徒を生じさせない魅力ある学校づくりとともにつながり支援の充実を図っていく。 ・成績指標が令和9年度の目標値を上回ったため、Aとしたが、今後も不登校児童生徒支援の充実を目指していく。 						
総合評価		<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	総合的な不登校対策の推進	担当課	学校教育課
概要	学習支援及び居場所づくりの場となる校内教育支援センター(アプローチルーム)の取組を推進する。		
令和6年度の実績	【不登校対策の推進】 校内教育支援センター(アプローチルーム)や教育支援センター(いきいきスクール・いきいきナイトスクール・フリースペースえがお)を活用することで、長欠傾向児童生徒や不登校児童生徒の居場所作りや学習保障、つながり支援の充実を図る。また、「不登校対策小中連携シート」と「アセス(学校環境適応感尺度)」を活用し、学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感を捉え、いじめ・不登校の未然防止につなげる。 ○学校総合支援員の配置: 全小中学校29校		
	指標名	実績値	指標別コメント
	不登校児童生徒数	308人	令和5年度より不登校児童生徒数は増加した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	2	令和5年度より不登校児童生徒数は増加した。不登校傾向にある児童生徒をしっかり把握し、一人一人のニーズに応じた支援を行っていく。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
いじめ防止基本方針に基づく関係会議の充実	学校・関係機関などが一体となり、深谷市全体でいじめ問題解消への取組を推進する。 ○いじめ問題専門委員会: 1回 いじめ問題対策連絡協議会: 1回	いじめの早期発見、早期解決に向けて、様々な学識経験を有する委員の意見を聞くことができた。	学校教育課
校種間のなめらかな接続	校種間の円滑な移行を図るために、小学生が中学校生活を体験する取組を推進する。 ○市立中学校全10校で交流事業を実施	小中一貫教育の推進として、市立中学校全10校で小学生と中学生が交流することができた。	学校教育課

基本目標 II 豊かな心と健やかな体の育成

II-3

施策名		生徒指導の充実				点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性	○組織的な支援をより効果的に行うために、生徒指導・教育相談体制を一層充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進する。									
	○関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行う。									
	施策に関連する 主な取組		○生徒指導・教育相談体制の充実							
		○非行・問題行動の防止								
成果指標	指標名	トラブルに基づく暴力行為の発生件数								
	指標の説明	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値		
	小・中学校における児童 又は生徒間のトラブルに 基づく暴力行為の年間 発生件数	小学校	4件	4件	0件	0件	-	-	0件	
		中学校	3件	8件	2件	0件	-	-	0件	
		基準値 (令和3年度)	小学校	4件	→	目標値 (令和9年度)	小学校	0件		
			中学校	3件			中学校	0件		
成果指標の 評価	(順調): 目標値に向けて順調に推移している									
課題	・各学校において暴力行為根絶を目指し、生徒指導体制を確立させていく必要がある。									
評価コメント	・年間を通して暴力行為はどの学校でも発生しなかった。引き続き各学校において暴力行為根絶を目指し、生徒指導体制を確立させていく必要がある。									
総合評価	A		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない							

最重点事業評価表

最重点事業名	生徒指導に係る学校訪問の充実		担当課	学校教育課
概要	各学校における校内指導体制の充実を図り、学習支援を含む、発達指示的生徒指導の充実を図る。			
令和6年度 の実績	【生徒指導に係る学校訪問の充実】 小・中学校における生徒指導の実態を把握し、課題解決に向けた協議等を通し、各学校における生徒指導の充実を図る。 ○1学期中に全29校の生徒指導訪問を行うことができた。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	児童生徒の暴力行為の発生件数	0件	暴力行為は減少した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	暴力行為は減少したが、引き続き児童生徒の心の不安に寄り添いながら、支援体制を整えていく必要がある。		
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
関係機関等との連携	「学校運営協議会」等で、情報の共有や意見交換等を行い、児童生徒の健全育成に取り組む。 ○生徒指導推進協議会:5回	様々な校種で生徒指導上の問題点について話し合うことで、活発な協議を行うことができた。	学校教育課

基本目標 II 豊かな心と健やかな体の育成

II-4

<p>施策名 人権を尊重した教育の推進</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>学校教育課</p>					
<p>施策の方向性</p>		<p>○人権教育を推進するための体制を充実するとともに、人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を改善する。 ○要保護児童対策地域協議会などの関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努める。 ○男女共同参画の視点に立った教育や新たな人権課題に対応した教育などを充実する。</p>							
<p>施策に関連する主な取組</p>		○人権教育推進体制の充実							
		○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善							
		○児童生徒の人権保護に向けた取組の推進							
		○男女共同参画の視点に立った教育の充実							
<p>指標名</p>		<p>人権感覚育成プログラムを活用した研修及び授業をした回数</p>							
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>	
<p>全小・中学校を対象とする「人権教育の実践状況に関する調査」で、人権感覚育成プログラムを活用した校内研修の実施回数。</p>		29回	29回	29回	29回	-	-	58回	
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		29回		<p>→</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	58回
<p>成果指標の評価</p>		<p>(横ばい) : 基準値に対し横ばい</p>							
<p>課題</p>		<p>・児童虐待防止教育の推進を図るため、県や市の関係部局と、より一層の連携を図る必要がある。 ・引き続き、研修会等を計画的、継続的に実施することで、教職員の資質向上を図る必要がある。</p>							
<p>評価コメント</p>		<p>・人権意識の高揚を図る研修会等を計画的に実施することで、教職員が自らの人権意識を見つめ直し、確かな人権感覚を身に付け、人権教育に関わる指導を行うことができた。 ・「人権感覚育成プログラム」を活用した研修や実践は全ての学校で取り組むことができた。 ・全小・中学校(29校)が、児童虐待防止講演会に参加し、研修内容を教職員間で共有するなどし、意識啓発、指導力の向上を図ることができた。</p>							
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>					

最重点事業評価表

最重点事業名	教職員研修の充実と関係機関との連携		担当課	学校教育課
概要	共生と支え合いの視点に立ち、教職員の人権感覚を磨く研修を充実させるとともに、児童虐待・ヤングケアラーに関する関係機関との連携を強化する。			
令和6年度の実績	【人権教育推進体制の充実】 ・深谷市新任、転入教職員研修会の実施 ・ブロック別人権教育研修会(市内10ブロック)の実施 ・児童虐待防止対策の推進 ○深谷市新任、転入教職員研修会を夏季休業中に実施した。 ○ブロック別人権教育研修会(市内10ブロック)で実施した。 ○児童虐待防止対策に関する講演会を実施した。 【ヤングケアラー支援体制の推進】 ・市内小学校6年生を対象にヤングケアラーに関する実態調査の実施 ○ヤングケアラーに関する実態調査を実施し、関係諸機関との連携を進め、必要に応じて福祉部門と繋げる体制を整えた。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「人権感覚育成プログラム」の活用	市内29校中29校	人権感覚育成プログラムを活用した授業、校内研修を、全小中学校(29校)で実施した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	教職員を対象として人権感覚育成プログラムを活用した校内研修を計画的に実施し、教職員の人権感覚を育成することができた。各種研修を受けて、人権感覚育成プログラムを活用した授業の充実を図り、児童生徒に人権感覚を育成していくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
全体計画・年間指導計画の充実	地域の実態に即した計画を充実し、全ての教職員の協力体制のもとで着実な実践を積み重ねる。 ○「性同一性障害をはじめとした性的マイノリティ(LGBTQ)」に関する研修(1回) 人権感覚育成プログラムを活用した授業を行った。	「人権感覚育成プログラム」を活用した研修や実践は令和5年度に続き、令和6年度も全ての学校で取り組むことができた。	学校教育課
「人権感覚育成プログラム」の活用	「人権感覚育成プログラム」をとおして、人権に関する諸課題についての教育の充実を図る。	「人権感覚育成プログラム」を活用した研修や実践は令和5年度に続き、令和6年度も全ての学校で取り組むことができた。	学校教育課
学校における男女共同参画の視点に立った教育の推進	深谷市男女共同参画推進条例に基づき、男女共同参画の視点に立った教育を推進する。 ○男女混合の名簿の使用等、男女共同参画への環境整備を行った。	男女共同参画の視点に立った人権研修や取組は令和5年度に続き、令和6年度も全ての学校で取り組むことができた。	学校教育課

基本目標 II 豊かな心と健やかな体の育成

II-5

施策名		健康の保持増進				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		<p>○児童生徒の健やかな心と体の育成のため、学校・家庭と地域の医療機関などの関係機関が連携して、組織的に学校保健活動の充実を図る。</p> <p>○朝食の欠食解消や学校給食の充実など、学校・家庭・地域が連携して食育を推進することで、児童生徒自らが、食を通じて健やかな体の育成を図るとともに、食品ロスの軽減に繋げる。</p> <p>○性に関する指導、薬物乱用防止教育などの今日的な課題に対応する教育を推進する。</p>							
施策に関連する 主な取組		○学校保健の充実							
		○学校給食の充実							
		○食育の充実							
		○性に関する指導や薬物乱用防止教育の推進							
指標名		毎日朝食を食べる児童生徒の割合							
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値	
成果指標	小学校	92.6%	93.9%	92.8%	91.9%	-	-	95.0%	
	中学校	84.5%	87.6%	86.5%	88.4%	-	-	93.0%	
	基準値 (令和3年度)	小学校	92.6%	➔			目標値 (令和9年度)	小学校	95.0%
		中学校	84.5%				中学校	93.0%	
成果指標の 評価	(横ばい): 基準値に対し横ばい								
課題	・朝食欠食率を減らす取組をより充実させ、家庭に協力してもらうための方策を引き続き考えていく必要がある。								
評価コメント	<p>・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を全小・中学校(29校)で作成するとともに、学校保健委員会を全小・中学校(29校)で年1回以上実施することができた。</p> <p>・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む。)を作成し、性に関する授業を計画的に実施することができた。</p> <p>・全小・中学校(29校)で薬物乱用防止教室を実施することができた。</p> <p>・季節の行事に合わせた給食や渋沢栄一翁給食などを提供し、ふるさと教育と関連付けて食育の推進を図った。</p>								
総合評価	A		<p>※総合評価の目安</p> <p>S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	食育の推進と朝食欠食の解消	担当課	学校教育課	
概要	学校と緊密に連携して食育を推進し、朝食欠食の解消や望ましい食習慣を身に付けさせる。			
令和6年度 の実績	【食育の推進】 朝食や睡眠などの生活習慣調査を実施し、児童生徒の生活習慣の現状について把握するとともに、その結果を各校に周知することで、各校ごとに家庭科等で「朝食の大切さ」について授業を実施した。 ○生活習慣調査を全校で実施 ○児童生徒の発達段階に応じた食育に関する授業を全校で実施 【学校給食費の補助】 物価高騰による食材費の価格高騰に対応するため、市費にて学校給食費の補助を実施した。 ○4月から9月は小学生1人当たり400円/月、中学生1人当たり500円/月の補助 ○10月から3月は小学生1人当たり950円/月、中学生1人当たり1,150円/月の補助			
		指標名	実績値	指標別コメント
		毎日朝食を食べている児童生徒の割合	小学校91.9% 中学校88.4%	前年度の数値とほぼ同程度であった。(令和5年度実績値小学校92.8%、中学校86.5%)
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	朝食欠食などの食生活の乱れや肥満傾向などが、生活習慣病と関係していると指摘される中、児童生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進していくことができるように、各校において栄養教諭や養護教諭を中心に工夫した取組を行った。実践例について共有を図ることで、より充実した取組が可能となるように支援した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
子供の発達段階に応じた指導計画の作成	子供の発達の段階に応じた心と体の指導計画を作成し、組織的に学校保健活動を推進する。 ○全29校において、食に関する全体計画・年間指導計画を作成して指導	食育月間を中心に各学校で食育の充実を図る取組を工夫して行った。また、栄養教諭等を中心に、食に関する指導の充実を図ることができた。	学校教育課
地産地消の推進	地元農家や農業団体等と連携し、地元産の野菜を取り入れた給食を提供し、地産地消の推進を図る。 ○主食の米について、100%深谷市産米を使用	学校給食については、限られた予算の中で献立を作成しなければならないため、メニューや価格により県外産、外国産のものを使用せざるを得ない状況もある。しかし、できる限り地場産物の活用率が高まるよう、学校給食献立研究会等で学校栄養士とも共有し、地場産物を活かした献立作成に努めた。	教育総務課
指導体制の充実	保護者の参加や外部指導者の活用など、性に関する指導や薬物乱用防止教育を推進する。 ○全29校において、性に関する指導の実施、薬物乱用防止教室を実施	各校において計画的に性に関する指導を実施したほか、全29校において、薬物乱用防止教室を実施した。	学校教育課

基本目標 II 豊かな心と健やかな体の育成

II-6

施策名		体力の向上と学校体育活動の推進				点検評価表 作成課	学校教育課		
施策の方向性		○新体カテストの実施・活用による体力と運動技能を高める授業の充実を図る。 ○学校が家庭や地域と連携して児童生徒の生活習慣の改善や運動習慣の確立を図る。 ○部活動地域移行を含め、専門的な指導力を有する地域の外部人材などを積極的に活用するなど運動部活動の新たな体制づくりに取り組む。							
施策に関連する 主な取組		○学校体育の充実							
		○新体カテストの実施と活用							
		○運動部活動の体制づくり							
指標名		新体カテストの総合評価で上位3ランク(A+B+C)の児童生徒の割合							
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値	
成果指標	小学校	80.4%	79.1%	80.2%	78.2%	-	-	85.0%	
	中学校	81.8%	80.9%	80.8%	80.1%	-	-	85.0%	
	基準値 (令和3年度)	小学校	80.4%				目標値 (令和9年度)	小学校	85.0%
	中学校	81.8%	中学校				85.0%		
成果指標の 評価		(横ばい): 基準値に対し横ばい							
課題		・3年間を通して、体力の伸びはあまり見られず、横ばいの状態である。 ・部活動の地域展開に向け、人材の確保や費用負担の在り方が課題となっている。							
評価コメント		・令和9年度の85%を達成するために、魅力ある体育授業を展開し、運動好きな児童・生徒を育て、運動習慣の確立を図っていく。 ・部活動の地域展開に向け、深谷市地域クラブ活動検討委員会で協議を行いながら、実証事業を実施した。令和5年度は3活動の実施であったが令和6年度は5活動で実施した。							
総合評価		A		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない					

基本目標 Ⅲ 地域に信頼される学校教育の推進

Ⅲ-1

施策名		信頼される教職員の育成				点検評価表 作成課	学校教育課			
施策の方向性	○教員の経験年数や専門性に応じた適切な研修を充実する。 ○人事評価制度を充実し、教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組む。 ○更なる業務改善や教員業務支援員(スクール・サポート・スタッフ)の導入などにより、教員が児童生徒と向き合う環境づくりを進めるとともに教員のワークライフバランスの向上に努める。 ○教職員の健康管理に配慮し、悩みを抱える教職員に対する取組を推進する。									
	施策に関連する 主な取組	○教育研究所の機能の充実				○児童生徒と向き合う環境づくりの推進				
		○教員研修の充実				○悩みを抱える教職員に対する取組の推進				
		○経験豊かな人材の活用				○指導力が不足している教員への対応				
○人事評価制度の活用										
指標名		授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている学校の割合								
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値		
成果指標 「全国学力・学習状況調査」において、授業研究や事例研究など、実践的な研修を「よくしている」と回答した学校の割合	小学校	63.2%	73.7%	68.4%	47.4%	-	-	100.0%		
	中学校	50.0%	60.0%	30.0%	10.0%	-	-	100.0%		
	基準値 (令和3年度)	小学校	63.2%	➔			目標値 (令和9年度)	小学校	100.0%	
		中学校	50.0%				中学校	100.0%		
成果指標の評価		(不調): 基準値を下回っている。								
課題		・働き方改革に伴い、研修の効率化を図るとともに、若手教員の増加に対応した充実した研修の実施。 ・人事評価制度では、学校によって校長が定める目標に教職員の目標が繋がっていなかったり、異なっていたりすることが見受けられるため、自己評価シートの作成における共通理解をさらに図る必要がある。								
評価コメント		・コロナ禍で実施することが難しかった研修会を開催することができている。働き方改革も考慮しながら、充実した研修を実施していく。 ・管理職を対象とした人事評価制度の研修を実施することで、評価者としての評価能力の向上と理解が深まってきている。 ・成果指標が小・中学校とも前年度を下回っているが、肯定的な回答(「よくしている」「どちらかといえば、している」)をしている学校は、小学校89.5%、中学校100%となっている。各校が実践的な研修を自信をもって「よくしている」と回答できるよう、引き続き、指導・支援をしていく。								
総合評価		B		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない						

最重点事業評価表

最重点事業名	関係機関との連携による教員、保護者、児童生徒支援の充実		担当課	学校教育課
概要	いじめ・不登校・ヤングケアラーなどの課題に対して、関係機関と連携を図り支援の充実を図る。			
令和6年度の実績	【学校、保護者支援拠点としての研究所】 教員の資質・能力の育成支援拠点となるよう整備を進め、発達障害など課題に対応するため、研究所の専門員や発達支援アドバイザーによる、学校、教員、保護者等への支援や巡回相談の充実、関係機関等との連携に取り組んだ。 ○保育園38回、母子通園施設8回、幼稚園8回、小学校36回、中学校3回等 計93回 ○発達支援アドバイザーによる学校訪問実施回数 小学校57回 中学校23回 ○他機関訪問及び連携 117回			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	教育研究所への相談件数	2,304件	教育研究所への相談件数は2,304件で、令和5年度より増加しており、相談件数は依然として多い。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	教育研究所への相談件数の内訳は、発達検査・報告が31%、就園・就学相談が25%、不登校が18%となっている。相談へ迅速かつ適切に対応できるように、ミーティングにおいて担当者の割り振りや対応について協議をしていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
教員の資質・能力の育成支援拠点としての機能強化	授業力向上を目指した実践的な研修の実施などにより、教員の資質・能力の向上を図る。 ○関係機関と連携し、研修を確実に実施した	働き方改革を考慮して効率化を図り、オンラインでの研修も実施できた。また、関係機関とも連絡調整を密に行った。	学校教育課
公正・公平な評価及び一人一人の教職員の資質・能力の向上	人事評価制度を活用し、学校全体の教育力を高め、教職員の資質・能力の向上を図る。 ○校長と教頭を対象にした評価者としての研修会:3回	評価者が評価制度をより有効に活用できるよう、教職員評価システム変更点や人事評価制度運用上の留意点について研修を行った。	学校教育課
学校現場の負担軽減	ICTの活用と事務の共同実施による業務の効率化に向けた取り組みを進める。 ○学校日誌、旅行命令簿、出勤簿のデジタル化、職員会議のペーパーレス化を適宜導入するなど、児童生徒に向き合う時間の確保、教員の働き方改革に繋げた。	教材研究・指導の準備・評価・校務などにICT機器を活用することが定着し、平常の授業における端末の利活用も進んでいる。	学校教育課

基本目標 Ⅲ 地域に信頼される学校教育の推進

Ⅲ-2

<p>施策名</p> <p>学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>学校教育課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○管理職を中心に教員の指導・支援体制の充実を図るとともに、教員と多様な人材が連携・協働し、学校の組織力向上を図る。 ○学校が核となり、学校・家庭・地域が協働して学校運営に取り組む組織体制を築き、充実させる。 ○学校評価を子供たちの教育に生かせるよう、評価結果の反映を充実させる。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○組織運営体制の整備・充実</p>						
		<p>○学校運営協議会の充実</p>						
		<p>○地域学校協働活動に関する連携・協働体制の整備</p>						
<p>指標名</p>		<p>学校運営協議会の平均開催回数</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>各小・中学校の学校運営協議会の1校あたりの平均開催回数</p>		<p>3.2回</p>	<p>3.2回</p>	<p>3.5回</p>	<p>3.6回</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>4.0回</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>3.2回</p>			<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>4.0回</p>	
<p>成果指標の 評価</p>		<p>(順調) : 目標値に向けて順調に推移している</p>						
<p>課題</p>		<p>・学校運営協議会の内容の充実を図るとともに、地域、家庭、教員等に広く学校運営協議会を広報し、コミュニティ・スクールの内容と意義を周知する必要がある。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・学校運営協議会の実施回数については、各校とも学期に1回を目途に実施している。各校の実情をふまえながら実施しており、実施回数も増加傾向にある。 ・学校運営協議会の内容に関しては、地域と連携した取組として、各校独自の取組が増えてきている。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>				

最重点事業評価表

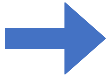
最重点事業名	学校における組織の一体性と学校機能の向上		担当課	学校教育課
概要	多様な人材が、それぞれの専門性を発揮し、連携・協働して子供たちに向き合う。			
令和6年度 の実績	【学校運営協議会の実施】 新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことを受け、各校では学校行事等の再開の在り方等について学校運営協議会の承認を得ながら進めることができた。 ○各小・中学校の学校運営協議会の1校あたりの平均開催回数:3.6回			
	【地域学校協働活動に関する連携協力体制の整備】 生涯学習スポーツ振興課が中心となって、地域学校協働活動推進員の選考を進めた。候補者の選考は、学校運営協議会委員、学校応援団、公民館運営審議会を兼務している者を参考に選考したため、地域学校協働活動に関する連携は行いやすいと想定している。 ○地域学校協働活動推進員の委嘱人数:29名			
	指標名	実績値	指標別コメント	
各小・中学校の学校運営協議会の1校あたりの平均開催回数	3.6回	各校では学校の実態に応じて、よりよい学校づくりに向けて協議を行った。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	学校運営協議会の実施回数については、各校とも学期に1回を目途に実施しており、各校の実情をふまえながら目標値を達成した。また、学校運営協議会の内容に関しては、地域と連携した取組として、各校独自の取組が増えてきている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
地域と共にある学校づくりの推進	学校・家庭・地域が協働して学校運営の改善、充実が図れるよう、学校運営協議会を支援する。 ○各小・中学校の学校運営協議会の1校あたりの平均開催回数:3.6回	平成28年度より全小・中学校(29校)で学校運営協議会を開催できている。今後は学校運営協議会の充実を図り、学校・家庭・地域が協働する形を作っていくために、さらに関係者の研修会や協議会を開催していく。	学校教育課
地域学校協働活動推進員の配置と研修の充実	地域学校協働活動推進員と学校運営協議会との協力体制を整える。 ○推進員の配置人数:29人/29校	推進員が、学校・地域のニーズをしっかりと把握しコーディネートできるよう推進活動のモデル化を図る。	生涯学習スポーツ振興課

基本目標 Ⅲ 地域に信頼される学校教育の推進

Ⅲ-3

施策名		子供たちの安全・安心の確保				点検評価表 作成課	学校教育課	
施策の方向性		<p>○学校における危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上に努める。</p> <p>○東日本大震災の教訓を踏まえ、子供たちに危機対応能力の基礎を身に付けさせるため、学校における実践的な防災訓練などを地域と連携して計画的に実施する。</p> <p>○児童生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進します。</p>						
施策に関連する 主な取組		○安全教育の推進						
		○学校の危機管理体制の整備・充実						
		○家庭・地域と連携した学校安全体制の推進						
指標名		地域と連携した防災訓練の実施率(中学校)						
成果指標	指標の説明	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値
	市内中学校における地域と連携した防災訓練の実施率	60.0%	60.0%	60.0%	60.0%	-	-	100.0%
		基準値 (令和3年度)	60.0%				目標値 (令和9年度)	100.0%
成果指標の 評価	(横ばい):基準値に対し横ばい							
課題		・通学路安全点検の結果を受けて、危険箇所等に係る児童生徒への指導と、地域や保護者への情報提供を適宜行っていく必要がある。						
評価コメント		<p>・成果指標である地域や関係機関と連携した防災訓練の実施率は、基準値となる令和3年度から横ばいである。</p> <p>・埼玉県教育委員会の方針でもある「緊急地震速報を活用した避難訓練」を全小・中学校(29校)で1回以上実施できた。</p> <p>・地域ぐるみで子供たちの安全を見守る活動を行った。</p>						
総合評価		<p>B</p> <p>※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表


最重点事業名	学校安全体制の充実		担当課	学校教育課
概要	深谷市登下校安全見守り連絡会や深谷市通学路安全対策連絡会を中核とし、学校と家庭・地域等が連携・協働した地域ぐるみの学校安全体制の充実に努める。			
令和6年度の実績	【子供たちの安全・安心の確保】			
	<ul style="list-style-type: none"> ○安全教育の推進 ○学校の危機管理体制の整備・充実 ○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進 ○安全点検の実施 ○全小・中学校(29校)が緊急地震速報の音源等を活用した避難訓練を実施 ○地域ぐるみで子供たちの安全を見守るために、「安心・ふっか・パトロール」子ども110番の車事業や子ども110番の家を継続 ○子供の声を取り入れた防災無線による下校の呼びかけを実施 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
地域や関係機関と連携した避難訓練の実施率	60%	市内中学校における地域と関係機関と連携した避難訓練の実施率		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	成果指標である地域や関係機関と連携した避難訓練を全中学校での実施を目指したい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
交通安全意識の醸成	<p>ヘルメット着用や、交通安全ルールへの遵守など、子供たちの交通安全意識を高める。</p> <p>○小学校1年生を対象に、登下校用や自転車乗車時用のヘルメットを配布。 交通安全教室の実施:全小・中学校</p>	小学生の登下校時でのヘルメットの着用や、中学生の自転車運転時のルール遵守は、子供たちの命を守る教育として必要な指導である。今後も、子供たちの交通安全意識を高めていく必要がある。	学校教育課
防災訓練の実施	<p>学校・家庭・地域・関係諸機関と連携した実効性の高い防災訓練を実施する。</p> <p>○緊急地震速報等を活用した避難訓練の実施:全小・中学校 小学校における引き渡し訓練を含めた避難訓練の実施:全小学校19校 不審者の対応マニュアルの見直しや確認を指示した。</p>	地震が起きた場合に、児童生徒が安全かつ迅速に避難できるよう、全小・中学校(29校)において緊急地震速報の報知音等を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。また、教職員においても、地震が起きたときの役割や児童生徒の誘導について理解することができた。	学校教育課

基本目標 Ⅲ 地域に信頼される学校教育の推進

Ⅲ-4

<p>施策名 学習環境の整備・充実</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>教育施設課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○計画的な施設整備により、安全で良好な学習環境づくりを進める。 ○衛生面を配慮し、トイレの洋式化を推進する。 ○教材・備品の整備、学校図書館の資料の充実、学校の情報化を推進する。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		○学校施設の整備						
		○教材・備品の整備						
		○学校図書館の充実						
		○ICT環境の充実						
<p>指標名</p>		<p>小・中学校トイレの洋式化率の向上(教職員用・来客用・給食場のトイレは除く)</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>市内小・中学校の児童生徒が使用する 大便器総数に対する洋式便器数の割合</p>		<p>48.6%</p>	<p>49.7%</p>	<p>52.6%</p>	<p>58.4%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>70.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>48.6%</p>			<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>70.0%</p>	
<p>成果指標の 評価</p>		<p>(順調): 目標値に向けて順調に推移している</p>						
<p>課題</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学校トイレ洋式化実施計画に沿った整備を実施するため、補助金等の活用や予算の確保が求められる。 ・学校施設の老朽化へ対応するための学校施設長寿命化計画は更新時期を迎えるが、適正規模・適正配置計画との整合が必要である。 ・給食調理場の各種備品類を計画的に更新、修繕を行い安心・安全な給食の提供が求められる。 						
<p>評価コメント</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・学校トイレ洋式化実施計画に沿った整備を実施することができた。 ・学校トイレ洋式化実施計画の改修スケジュールを考慮し、便器のみを和式から洋式に交換する工事を個別に実施し、洋式化率を向上することができた。 ・学校トイレ洋式化実施計画の令和6年度の目標値55.2%を上回ることができた。 ・国庫補助金の活用により、理科、算数及び数学の設備の整備を進めることができた。給食備品類の入替え、修繕等を行い、安心・安全な給食を提供することができた。 ・計画的な図書購入により、小中学校全体において図書館の標準図書冊数を上回ることができた。 ・一人一台端末の保守・運用について適切に行った。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。 						
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>				

最重点事業評価表


最重点事業名	学校施設整備事業	担当課	教育施設課	
概要	トイレのユニバーサル化及び洋式化を進めるため桜ヶ丘小学校トイレ改修工事(Ⅱ期工事)、上柴中学校トイレ洋式化改修工事(Ⅰ期工事)を実施する。また、中学校体育館エアコン整備設計業務を行う。			
令和6年度 の実績	<p>【トイレ洋式化改修工事の実施】</p> <p>桜ヶ丘小学校(Ⅱ期)、上柴中学校(Ⅰ期)のトイレ洋式化改修工事を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工事請負契約の成立 ○工事中の労働災害発生ゼロ ○工期内の工事完成 <p>【中学校体育館エアコン整備設計業務、トイレ洋式化改修工事設計業務の実施】</p> <p>中学校全10校の体育館にエアコンを整備するための設計業務を実施する。また、幡羅小学校、上柴東小学校、藤沢中学校のトイレ洋式化改修設計業務を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○委託業務契約の成立 ○設計検討会の実施 ○履行期限内の業務完了 ○上柴東小学校の契約解除 			
		指標名	実績値	指標別コメント
		契約期間内の工事完成及び設計業務完了	83%	工事2件及び設計業務3件は契約期間内に完了できたが、設計業務1件は受注者都合により契約解除になった。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	2	今回の契約解除の理由は受注者の体調不良であるが、契約解除に至る前に時間的余裕があれば、他の対応を講じられる場合があるので、進捗遅延の早期発見に努める必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
小・中学校ICT整備事業	<p>渋沢 spirit in ふかや GIGAスクールを充実させるための環境整備を進める。</p> <p>○LBO全校実施</p>	令和5年度にセンター集約型からLBO(ローカルブレイクアウト:各学校からインターネット回線へ変更したことにより、高速ネットワーク通信が可能となり、令和6年度は各学校における端末利活用を推進することができた。	学校教育課

基本目標Ⅳ 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上

Ⅳ-1

施策名		家庭の教育力向上に向けた支援				点検評価表 作成課		生涯学習スポーツ振興課	
施策の方向性		○家庭教育の大切さについて啓発するとともに子供たちが基本的な生活習慣を身に付けるための活動を推進する。 ○親が親として育ち、家庭における教育力が向上するための学習の機会を提供する。							
施策に関連する主な取組		○家庭教育学級の充実							
		○親の学習講座の推進							
		○地域世代間交流事業の推進							
		○家庭教育だより「まごころ」の発行							
指標名		親の学習講座の参加者数							
成果指標	指標の説明	令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値	
	親の学習講座の参加者数	621人	1,003人	1,454人	1,455人	-	-	1,800人	
		基準値 (令和3年度)	621人			目標値 (令和9年度)	1,800人		
成果指標の評価		(順調)：目標値に向けて順調に推移している							
課題		・コロナ禍をきっかけとして、家庭教育学級は参加者が減少している。各館において、座学だけではなくスポーツ・レク等も含めた学級を計画するなど工夫が必要がある。 ・親の学習講座を継続して拡大していくためには、埼玉県による家庭教育アドバイザーの確保・育成が重要である。							
評価コメント		・成果指標に用いている公民館及び就学時健診時に実施している親の学習講座の参加者数は、前年の実績を上回ることができた。 ・公民館における家庭教育学級はすべての館で開設でき、家庭教育学級参加者数は、前年の実績を上回ることができた。 ・公民館で開催している各種事業は再開し、世代間交流事業も概ね開催することができた。 ・家庭教育だより「まごころ」の発行は、計画どおり年3回発行し、回覧板やデータ配信、ホームページ等を活用して、家庭教育に関する啓発を行った。 ・親の学習講座を広く周知するため、家庭教育アドバイザーとPR動画を制作した。令和7年度以降、家庭教育だよりや「まなびポケット」等により保護者等への周知を図る。							
総合評価		A		※総合評価の目安 S：計画以上に進んでいる A：ほぼ計画通りに進んでいる B：あまり進んでいない C：まったく進んでいない					

最重点事業評価表

最重点事業名	家庭教育学級事業		担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	公民館において家庭教育学級を実施し、家庭における教育力の向上や親同士の交流の促進を図る。			
令和6年度の実績	【家庭教育学級の開設及び「親の学習」講座の実施】			
	<p>公民館(12館)において家庭教育学級を開設し、保護者等が各講座を通して、家庭教育の重要性や子育てに必要な知識を深めるとともに、保護者による交流等を行う。また、家庭教育学級の1講座として、「親の学習」を実施し、グループ形式による意見交換・情報共有等を行う。</p> <p>○学級実施回数:26回 ○「親の学習」実施数:15回 ○学級参加者数:1,487人 ○「親の学習」参加者数:443人</p>			
	<p>【就学時健康診断「親の学習」講座の実施】</p> <p>小学校(19校)が実施する就学時健診において、保護者を対象に「親の学習」講座を実施し、グループ形式による意見交換・情報共有等を行う。 なお、親の学習は、埼玉県家庭教育アドバイザー及び社会教育指導員が講師となり行っている。</p> <p>○講座実施校:17校/19校 ○講座参加者数:1,012人</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	家庭教育学級等(親の学習講座含む)参加者数	2,499人	家庭教育学級及び「親の学習」講座(小学校)の参加者数(合算)は、前年度の実績値を上回った。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	家庭教育学級及び「親の学習」講座は、昨年の実績を上回ることができた。引き続き、公民館関係団体やPTA・学校と連携を図り、これら事業を継続的に実施する。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
世代間交流事業	<p>郷土に伝わる行事等の体験活動(もちつき会、しめ縄飾り教室等)をとおして、世代間の交流を図る。</p> <p>○公民館における世代間交流等事業数:10事業</p>	<p>市内6館(藤沢・明戸・大寄・豊里・上柴・川本)で、まゆ玉作り、しめ縄飾り、十日夜、七夕、わなげ大会等の事業を実施でき、青少年の健全育成と地域コミュニティの醸成等に寄与することができた。引き続き、これら事業を継続していく。</p>	生涯学習スポーツ振興課

基本目標Ⅳ 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上

Ⅳ-2

<p>施策名</p> <p>家庭・地域・学校が協働する教育体制の整備</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>					
<p>施策の方向性</p>		<p>○地域住民の地域学校協働活動などへの積極的な参加を促進し、子供たちの居場所づくりや学習支援などを行う体制を強化する。 ○ボランティア意識の高揚を図り、社会参加活動や青少年健全育成の取組を促進する。</p>							
<p>施策に関連する主な取組</p>		<p>○放課後子ども教室の推進</p> <p>○地域学校協働活動推進員・学校応援団活動などの推進</p> <p>○学校教育・社会教育の連携</p> <p>○ボランティア活動の促進</p>			<p>○青少年健全育成活動の促進</p>				
<p>指標名</p>		<p>地域の行事や活動に参加している子供の割合</p>							
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>	
<p>全国学力・学習状況調査において、市内の全ての小学6年生及び中学3年生のうち、地域の行事や活動に参加している児童生徒の割合</p>		<p>64.1%</p>	<p>59.8%</p>	<p>61.8%</p>	<p>-%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>73.0%</p>	
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>64.1%</p>		<p>→</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>73.0%</p>
<p>成果指標の評価</p>		<p>(横ばい): 基準値に対し横ばい</p>							
<p>課題</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・がんばル〜ム参加者数の減少に伴う事業の見直し(開設場所の変更等)を行う必要がある。 ・平日放課後子ども教室の運営者(コーディネーター)、協力者を確保する必要がある。 ・地域学校協働活動推進員(各小中学校に1名配置)を公民館・学校・自治会・青少年健全育成会などへ広く周知する必要がある。 							
<p>評価コメント</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・国が実施している「全国学力・学習状況調査」の当該設問が無くなり成果指標「地域の行事や活動に参加している子供の割合」の実績値が得られないことから、令和6年度の実績値は「-」とした。令和7年度以降、評価が実施できるよう、令和7年度中に市独自で同様の調査を実施する。 ・がんばル〜ム参加児童の満足度は高い状況(85.2%)である。 ・平日放課後子ども教室は計画どおり6校(深谷・大寄・八基・岡部・本郷・花園)で実施した。 ・各小中学校に地域学校協働活動推進員を配置し、各推進員の活動を支援した。 							
<p>総合評価</p>		<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる B: あまり進んでいない A: ほぼ計画通りに進んでいる C: まったく進んでいない</p>							

最重点事業評価表

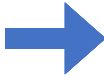
最重点事業名	放課後子ども教室推進事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課	
概要	「がんばル～ム」の実施のほか、平日の放課後子ども教室の拡充に努める。			
令和6年度の実績	【がんばル～ムの開設】 土曜日の午前中に市内小学校(19校)の図書室等において、児童を対象に自主学習の支援を行う。学習の支援・相談等は、ちいきの先生(地域の人材)が行う。なお、年間実施回数は、各校20回程度(夏・冬・春休み等は除く)を計画した。 ○実施回数(19校):381回 ○参加児童数(19校):372人 ○ちいきの先生の数:105人 ○参加児童満足度:85.2% 【平日放課後子ども教室の実施】 令和元年度からモデル事業として、平日の放課後、市内小学校の空き教室等において、主に3年生から6年生を対象に漢字学習や体験学習等を行っている。漢字学習や体験学習等の指導は、ちいきの先生や地域の団体等ボランティアが行う。なお、令和6年度の実施校は6校(深谷・大寄・八基・岡部・本郷・花園)とし、年回実施回数は10回程度を計画した。 ○実施校:6校/6校 ○実施回数(6校)53回 ○参加児童数(6校):115人 ○参加児童数(累計):929人			
		指標名	実績値	指標別コメント
		がんばル～ム参加児童数(19校)	372人	がんばル～ム参加(登録)児童数は、昨年の実績(394人)を下回る実績となった。
	担当課評価	評価区分	評価コメント	
	2	がんばル～ム参加児童数は年々減少している。ちいきの先生の数も同様に減少している。今後の運営を見据え、会場を公民館に変更し、スポーツ・レク等を拡大するなど、がんばル～ムの充実に向け検討を進める。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
地域学校協働活動推進員・学校応援団活動などの推進	市内小・中学校区に地域学校協働活動推進員を配置し、地域学校協働活動の推進を図る。その際、学校応援団等の活動を充実させ、登下校の安全確保や学習のための支援体制を強化する。 ○推進員の配置人数:29人/29校	推進員が、学校等のニーズをしっかりと把握しコーディネートできるよう推進活動のモデル化を図る。	生涯学習スポーツ振興課

基本目標 V 生涯学習の推進

V-1

<p>施策名</p> <p>市民のニーズに応える生涯学習の支援</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○学習情報の提供、指導者の育成や確保など、生涯学習を推進するための体制を整備する。</p> <p>○多様化する学習ニーズに対応できるよう、公民館事業等の更なる充実を図るとともに、企業等の専門的知識・技術を活用した講座等を開催し、市民の学習機会の拡充を図る。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○生涯学習推進体制の整備・充実</p> <p>○指導者の育成・確保</p> <p>○学習情報の収集と提供</p> <p>○講座・教室の充実</p>			<p>○ふかや市民大学の推進</p> <p>○子供体験学習の推進</p>			
<p>指標名</p>		<p>生涯学習を実践している市民の割合</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「自発的な学習や自己啓発活動など生涯学習を実践している」と答えた市民の割合</p>		<p>31.3%</p>	<p>35.3%</p>	<p>34.4%</p>	<p>36.0%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>38.0%</p>
<p>成果指標</p>		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>31.3%</p>			<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>38.0%</p>	
<p>成果指標の 評価</p>		<p>(順調) : 目標値に向けて順調に推移している</p>						
<p>課題</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館・生涯学習センターのさらなる利用促進が求められている。 ・コロナ禍を背景に参加者数が減少した公民館事業について見直す必要がある。 ・市民ニーズに合致した事業(市民大学・子ども大学等)展開が求められている。 ・市民大学卒業生(校友会等)が、まちづくりに参加できる仕組みづくりが必要である。 						
<p>評価コメント</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の実績値は前年の実績値を上回った。 ・指定管理者制度の導入(令和7年度から)により、地域課題等をテーマとした学級講座やニーズの高い事業等を展開するなど、市民の学習活動機会の充実を図る。 						
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる B: あまり進んでいない A: ほぼ計画通りに進んでいる C: まったく進んでいない</p>				

最重点事業評価表

最重点事業名	市民大学運営事業		担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	市民の生涯学習及びボランティア活動への理解を深め、学習を通して人と人がつながり、そこで得た学習成果をまちづくりに生かすことを目的に「ふかや市民大学」を開設する。			
令和6年度の実績	【ふかや市民大学の開校】			
	大学教授や行政職員、地域人材等を講師として、年間20回(ひと月2回程度)の講座を行う。また、卒業後も継続して学習活動ができるよう卒業生に対して支援(校友会等の紹介)を行う。 ○応募者数:79人/80人 ○卒業生数:63人 ○校友会登録率:79.36% ○運営委員会開催数:3回			
	指標名	実績値	指標別コメント	
受講生の満足度	90%	受講者アンケート調査による満足度(良かった)は、とても高い(90.0%)結果である。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	応募者数は定員に達していないが、受講生の満足度は9割と高く、講義内容は好評である。また、卒業生の約8割が校友会に加入することができ、卒業後の学習活動の場を提供することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
子ども大学推進事業	地元大学等との連携により「子ども大学」を開設し、子どもの知的好奇心を刺激する講座等を実施するなど、学習・体験活動の機会を提供する。 ○応募児童数:22人/40人	応募児童数は定員に達していないが、参加児童アンケート調査の満足度(楽しかった)は9割と高く、講義内容は好評である。	生涯学習スポーツ振興課

基本目標 V 生涯学習の推進

V-2

<p>施策名</p> <p>生涯学習施設の整備・充実</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>				
<p>施策の方向性</p> <p>○生涯学習施設の整備・充実を図る。 ○生涯学習施設の適切かつ効率的な維持管理に努める。</p>								
<p>施策に関連する 主な取組</p> <p>○公民館の整備・充実 ○図書館施設の充実</p>								
<p>指標名</p> <p>公民館の稼働率</p>								
<p>成果指標</p>	<p>指標の説明</p> <p>市内12公民館全室の1時間ごとの平均稼働率</p>	<p>令和3年度 実績値</p> <p>30.1%</p>	<p>令和4年度 実績値</p> <p>27.4%</p>	<p>令和5年度 実績値</p> <p>30.2%</p>	<p>令和6年度 実績値</p> <p>30.2%</p>	<p>令和7年度 目標値</p> <p>-</p>	<p>令和8年度 目標値</p> <p>-</p>	<p>令和9年度 目標値</p> <p>35.0%</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p> <p>30.1%</p>	<p>→</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p> <p>35.0%</p>			
	<p>成果指標の 評価</p>	<p>(横ばい): 基準値に対し横ばい</p>						
<p>課題</p> <p>・豊里公民館、幡羅公民館、大寄公民館等の一部の公民館は建設から25年が経過していることから、大規模改修を実施することについて検討する必要がある。 ・深谷図書館、花園図書館は建設からそれぞれ34年、20年が経過しており、施設や設備に不具合等が生じていることから、修繕や更新を実施する必要がある。</p>								
<p>評価コメント</p> <p>・成果指標「公民館の稼働率」は、前年度と同等であった。 ・市内公民館の保守点検や修繕・工事など実施し、適正な施設の維持管理を行うことができた。 ・令和6年4月1日に、川本地区複合施設を開館した。川本生涯学習センター・川本公民館の年間利用者数(97,859人)は、前年度(27,968人)の約3.5倍となった。 ・市内図書館の保守点検や修繕などを実施し、適正な施設の維持管理を行うことができた。</p>								
<p>総合評価</p> <p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる B: あまり進んでいない A: ほぼ計画通りに進んでいる C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	公民館施設整備維持事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課					
概要	市民の学習・活動機会の拡充や適切な施設維持管理を行うとともに、令和7年度の指定管理者制度の導入に向け、関係各課との調整や事務引継ぎ等の業務を行う。							
令和6年度の実績	【川本地区複合施設建設事業】 令和4年4月に着工した建設工事は、令和6年3月に完了し、予定どおり、令和6年4月1日に川本地区複合施設を開館することができた。 ○公民館の年間利用者数:97,859人(うち浴室利用者数:32,917人) ○公民館の年間利用件数:3,353件(貸館)							
	【公民館施設の維持管理】 市内12公民館・生涯学習センター施設の維持管理(施設法定点検・保守点検、施設修繕、光熱水費等の支払いなど)を適正に行うことができた。特に、施設修繕については雨漏り補修工事、消防設備修繕、自動ドア修繕等を実施したほか、藤沢公民館で空調機の更新を行った。 ○年間修繕件数:89件(修繕費:17,396,123円) ○年間工事件数:20件(工事請負費:41,589,322円) ○瑕疵による事故件数:0件							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公民館利用者数(年間)</td> <td>635,437人</td> <td>公民館利用者数は、昨年度の実績(571,206人)を上回ることができた。</td> </tr> </tbody> </table>			指標名	実績値	指標別コメント	公民館利用者数(年間)	635,437人
指標名	実績値	指標別コメント						
公民館利用者数(年間)	635,437人	公民館利用者数は、昨年度の実績(571,206人)を上回ることができた。						
担当課評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価区分</th> <th>評価コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>令和7年度から、公民館の運営を指定管理者が行うことで、市民の学習活動機会の拡充、効率的・効果的な施設の運営に期待する。令和6年度は、指定管理者(出向職員)とともに公民館事務等の引継ぎ業務を行った。</td> </tr> </tbody> </table>	評価区分	評価コメント	3	令和7年度から、公民館の運営を指定管理者が行うことで、市民の学習活動機会の拡充、効率的・効果的な施設の運営に期待する。令和6年度は、指定管理者(出向職員)とともに公民館事務等の引継ぎ業務を行った。			
評価区分	評価コメント							
3	令和7年度から、公民館の運営を指定管理者が行うことで、市民の学習活動機会の拡充、効率的・効果的な施設の運営に期待する。令和6年度は、指定管理者(出向職員)とともに公民館事務等の引継ぎ業務を行った。							
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)								

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価

基本目標 V 生涯学習の推進

V-3

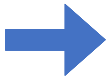
<p>施策名 図書館サービスの充実</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>図書館</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○ニーズの多様化・高度化に対応するため、幅広く資料を収集するとともに図書館資料の整備・充実に努める。 ○ICTを活用した図書館サービスの充実に努める。 ○お話し会や各種講座・講演会などを開催し、市民文化の向上を図るとともに、子供や障害者をはじめ幅広い市民の読書活動の推進を図る。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○図書館機能の充実 ○地域の情報拠点としての資料の収集と提供の充実 ○読書活動の推進 ○図書館運営の充実</p>						
<p>指標名</p>		<p>市民一人あたりの図書館資料の貸出点数</p>						
<p>成果指標</p>	<p>指標の説明</p>	<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
	<p>図書館本館、4分館での貸出点数の合計を 人口で割った平均値</p>	<p>3.45点</p>	<p>3.58点</p>	<p>3.44点</p>	<p>3.50点</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>4.00点</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>3.45点</p>			<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>4.00点</p>	
<p>成果指標の 評価</p>		<p>(順調): 目標値に向けて順調に推移している</p>						
<p>課題</p>		<p>・引き続き利用者のリクエストを分析して図書館資料を購入するとともに、各館独自の資料を収集する必要がある。 ・利用者サービスの向上を図るため、ICTを利用した電子図書館の導入を検討する必要がある。 ・「第3次深谷市子供読書活動推進計画」の目標や取組の達成状況を検証し、学校や地域等との連携を図り、さらなる子供の読書活動の推進を図る必要がある。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・市民ニーズに合致した図書館資料を整備し、資料の充実に努めたことにより、市民一人当たりの図書館資料の貸出点数(3.50)が令和5年度の実績値(3.44)を上回った。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	読書活動推進事業	担当課	図書館
概要	おはなし会や各種講座の開催など、各世代での読書活動を推進していくとともに、第3次深谷市子供読書活動推進計画に基づき、子供の読書活動を推進する。		
令和6年度 の実績	【読書活動推進イベントの開催】 おはなし会や講座など、読書活動推進イベントを開催することができた。 ○イベント開催回数 147回 ○講演会・講座参加人数 126人(延べ人数) ○ブックスタート参加人数 728人(絵本の読み聞かせと絵本のプレゼント) ○おはなし会参加人数 1,387人(映画会を含む)		
	指標名	実績値	指標別コメント
	おはなし会・講座等の延べ参加人数	2,241人	令和5年度に新型コロナウイルスが5類に移行したことから映画会を再開し、おはなし会の人数制限や事前申し込みを無くして参加しやすくした。令和6年度についても、引き続き人数制限や事前申し込みを無くして参加しやすくすることにより、おはなし会の参加人数を増加させることができた。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	引き続き、「第3次深谷市子供読書推進計画」における取組により子供の読書活動の推進を図り、利用者の要望を取り入れた講座の開催など、図書館利用の増加に繋げる。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
図書館資料整備事業	生涯学習の拠点として、利用者ニーズに合わせた幅広い領域の図書館資料の整備を各館で推進する。 ○ 図書・視聴覚・雑誌購入点数 13,777点 (図書11,566冊、 視聴覚資料80点、雑誌2,131冊)	選書方針に基づき一般書、児童書などを幅広く、バランスよく購入することができた。	図書館

基本目標 VI スポーツ・レクリエーションの推進					VI-1					
施策名 多様な主体へのスポーツ・レクリエーション機会の創出		点検評価表作成課		生涯学習スポーツ振興課						
施策の方向性		○トップレベルの大会や各種スポーツ・レクリエーション大会・教室などへ参加するきっかけを作るため、情報の提供・周知を図る。 ○スポーツ・レクリエーション活動に、市民が積極的に取り組めるような環境を整備する。								
施策に関連する主な取組		○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実								
		○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援・連携								
成果指標	指標名		トップレベル大会の観戦者数及び関連したイベントの参加者数							
	指標の説明		令和3年度実績値	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度目標値	令和8年度目標値	令和9年度目標値	
			4,907人	10,770人	7,889人	6,418人	-	-	5,500人	
	トップレベルの大会での観戦者数や関連したイベントなどへの参加者数		基準値 (令和3年度)		4,907人			目標値 (令和9年度)		5,500人
	成果指標の評価		(順調)：目標値に向けて順調に推移している							
課題		・ふかやシティハーフマラソンについては、燃料費や人件費及び物価の高騰の影響を受け、経費の増加が進む中、参加者の定員割れによる収入が減少する等、運営が困難な状況となっている。								
評価コメント		・ふかやシティハーフマラソンについては、効率的な大会運営に向け、業務の見直しを行い、概ねトラブルなく進めることができた ・スポーツ協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団の3団体が実施する市民大会や教室の開催を支援し、市民が広くスポーツ・レクリエーション活動に参加できる環境の整備を図った。								
総合評価		A		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる B: あまり進んでいない A: ほぼ計画通りに進んでいる C: まったく進んでいない						

最重点事業評価表

最重点事業名	スポーツ教室・イベント開催事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	「ふかやシティハーフマラソン」等のイベントを開催するとともに、子どものスポーツ環境を推進するために多種目のスポーツを体験できる「ふっかちゃんジュニアスポーツフェスタ」を開催し、生涯スポーツの推進を図る。		
令和6年度の実績	【ふかやシティハーフマラソンの開催】 (公益)日本陸上競技連盟公認コースであるハーフと10kmをはじめ、5km、中学生以下を対象とした3kmと2.4km、親子での完走を目的とした1.6kmの計6種目を設定。 ○定員 ハーフ:2,800人 10km:1,200人 5km:700人 ○参加費 ハーフ・10km:6,000円 5km:5,500円 高校生:1,500円 中学生:1,000円 小学生:500円 親子:1,500円 【ジュニアスポーツフェスタの開催】 子どものスポーツばなれを解消するため、小学生を対象に各種スポーツ体験を実施し、スポーツを始めきっかけづくり及び青少年の健全育成、並びに市内のスポーツ活動全体の活性化を目的とする。 ○体験種目数:19種目		
	指標名	実績値	指標別コメント
	第19回ふかやシティハーフマラソン及びジュニアスポーツフェスタの参加者数	6,362人	ふかやシティハーフマラソンについては、前年に比べて増加した。大会は事故等なく安全に開催することができた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	参加者数が前年に比べて増加し、多くの市民に対してスポーツ・レクリエーション活動を行う機会を提供することができた。また、貴重品預り所を移動式のコインロッカーへ変更して利用者の利便性を高めつつ、業務の簡略化及び効率化が図られた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価

基本目標 VI スポーツ・レクリエーションの推進

VI-2

<p>施策名 生涯スポーツの推進</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>					
<p>施策の方向性</p>		<p>○市民ニーズに合わせたスポーツ・レクリエーション活動の充実を図る。 ○市民の健康づくりとふれあいの機会を創出する。</p>							
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○スポーツ推進委員との連携の強化</p>							
		<p>○市民の健康づくりとふれあいの機会の創出</p>							
		<p>○障害者スポーツの推進</p>							
<p>指標名</p>		<p>スポーツやレクリエーションを行っている市民の割合</p>							
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>	
<p>深谷市民まちづくりアンケートにおいて、 スポーツやレクリエーションを「日常的に 行っている」「ときどき行っている」と答え た市民の割合</p>		<p>54.3%</p>	<p>54.5%</p>	<p>55.7%</p>	<p>57.0%</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>59.0%</p>	
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>54.3%</p>		<p>➡</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>59.0%</p>
<p>成果指標の 評価</p>		<p>(順調)：目標値に向けて順調に推移している</p>							
<p>課題</p>		<p>・スポーツ推進委員については、委員の高齢化が進むとともに、なり手不足により委員数が減少傾向にある。</p>							
<p>評価コメント</p>		<p>・ボッチャをはじめとしたパラスポーツの活動を推進するため、委員自身の技能向上を図るための研修会を実施。また、パラスポーツやニュースポーツの体験会等を開催し、普及に努めている。 ・日常的なスポーツ・レクリエーション活動を推進するために市内12地区に6～8kmのウォーキングコースを設定しているほか、ウォーキング大会を開催する等、市民が楽しみながら健康増進に取り組むことができる施策を進める。</p>							
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる B: あまり進んでいない A: ほぼ計画通りに進んでいる C: まったく進んでいない</p>					

最重点事業評価表

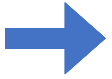
最重点事業名	ウォーキング推進事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	市民が日常的に楽しみながら健康増進に取り組めるようウォーキングコースを設置するとともにウォーキングイベントを開催しふれあいの場を設ける。		
令和6年度の実績	【ウォーキングイベントの開催】 大寄公民館と市歩け歩け協会との共催イベント。 大寄地区の歴史遺産を巡るコースを設定。 新一万円札の発行記念大会として開催。 ○第11回ふっかちゃんわくわく市民ウォーキング		
	【ウォーキングコースの設定】 健康維持、体力向上を図ることができるウォーキングを身近に楽しみながら行えるよう市内12地区に設定。 1コースは概ね6～8km。		
	指標名	実績値	指標別コメント
	ウォーキングイベント参加者数	89人	市広報やHPにて開催を広く周知した。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	交通誘導にスポーツ推進委員や自治会の体育部の協力を仰ぐと共に歩行者専用道路をコースに選定する等安全面に配慮して開催。事故等なく実施することができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
スポーツ推進委員活動事業	障害者関係団体と連携協力して、スポーツ推進委員を派遣しスポーツ・レクリエーションを通じて社会参画できる環境づくりを推進する。 ○派遣指導回数:28回	障害者スポーツ体験交流会、市民体力測定、がんばル～ム軽スポーツ教室等、様々な対象者に向けたスポーツ・レクリエーションイベントを開催することができた。	生涯学習スポーツ振興課

基本目標 VI スポーツ・レクリエーションの推進

VI-3

<p>施策名</p> <p>スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>生涯学習スポーツ振興課</p>				
<p>施策の方向性</p>		<p>○計画的な改築や改修により利用者が安全かつ快適に利用できるよう、整備・充実を図る。</p> <p>○スポーツ施設の適正な維持管理に努める。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実</p>						
		<p>○スポーツ施設の維持管理</p>						
<p>指標名</p>		<p>スポーツ施設の利用者数</p>						
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>総合体育館(ビッグタートル)などの スポーツ施設の年間利用者数</p>		<p>315,394人</p>	<p>446,299人</p>	<p>470,388人</p>	<p>476,565人</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>573,000人</p>
		<p>基準値 (令和3年度)</p>	<p>315,394人</p>				<p>目標値 (令和9年度)</p>	<p>573,000人</p>
<p>成果指標の 評価</p>		<p>(順調): 目標値に向けて順調に推移している</p>						
<p>課題</p>		<p>・総合体育館については、指定管理者による管理・運営が行われていることにより、事故などの大きな問題は生じていないが、稼働から30年以上が経過し、全体的な老朽化が進んでいることから、改修等の整備を検討する必要がある。</p> <p>・市営グラウンドについては、より効率的かつ効果的な施設管理に向け、現状一部業務にとどまる指定管理者制度の導入を全業務へ見直していく。</p>						
<p>評価コメント</p>		<p>・総合体育館については、コロナ禍前の水準まで戻っていないものの、施設利用件数や利用料金収入が増加傾向にある。</p>						
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる B: あまり進んでいない A: ほぼ計画通りに進んでいる C: まったく進んでいない</p>				

最重点事業評価表

最重点事業名	社会体育施設整備管理事業	担当課	生涯学習スポーツ振興課
概要	積極的なスポーツ・レクリエーション活動の推進に向けて、総合体育館や公民館体育室などのスポーツ施設の環境整備に務める。		
令和6年度の実績	【総合体育館の整備管理】 スポーツ・レクリエーションの振興を図り、以って健康で文化的な生活に資するために設置した総合体育館について、安全かつ快適な施設利用に向けた修繕や備品管理を行い、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境を整備する。 指定管理制度を導入。 ○利用者数 207,755人 ○利用料金収入 41,761,940円		
	【市営グラウンドの維持管理】 スポーツ・レクリエーションの普及を通してコミュニティ活動の推進及び健康増進を図るために設置する計7グラウンドを適正に維持する。 指定管理制度を導入。 ○利用者数 61,453人 ○使用料金収入 2,562,825円		
	指標名	実績値	指標別コメント
総合体育館開館日数	358日	臨時休館することなく開館することができた	
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	指定管理者によりプロリーグの興行利用のほか、スポーツ以外のイベント等の利用促進が行われ、施設の効率的かつ効果的な運用が行われている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価

基本目標 VII 郷土の歴史・文化の継承と活用

VII-1

施策名		郷土にゆかりのある偉人を生かした取組の推進				点検評価表 作成課	文化振興課	
施策の方向性		○郷土にゆかりのある偉人顕彰のために資料の収集や調査・研究を行い、その成果を市内外に発信する。 ○郷土にゆかりのある偉人に関する文化財等の活用を推進する。						
施策に関連する 主な取組		○郷土にゆかりのある偉人に関する情報の収集と発信						
		○郷土にゆかりのある偉人に関する文化財等の活用						
指標名		渋沢栄一ゆかりの施設の来場者数						
指標の説明		令和3年度 実績値	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 目標値	令和8年度 目標値	令和9年度 目標値
成果指標 渋沢栄一にゆかりのある「中の家」「尾高惇忠生家」「誠之堂・清風亭」「旧煉瓦製造施設」「渋沢栄一記念館」の1年間の来場者数		486,698人	163,603人	171,968人	278,607人	-	-	274,000人
		基準値 (令和3年度)		486,698人		→ 目標値 (令和9年度)		274,000人
成果指標の 評価		(順調): 目標値に向けて順調に推移している						
課題		<ul style="list-style-type: none"> ・新一万円札発行後も企画展やイベントを通じた情報発信の進め方を考える必要がある。 ・旧渋沢邸「中の家」の土蔵群や尾高惇忠生家の改修整備のための課題を克服する必要がある。 ・ボランティア団体の継続的な支援活動のあり方を考える必要がある。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事を継続し、展示活用基本計画に基づき、保存と展示活用の両立を図る必要がある。 ・デジタルミュージアムの見直しに向けた取り組みが必要である。 						
評価コメント		<ul style="list-style-type: none"> ・渋沢栄一関連の企画展等を4回開催し、渋沢栄一や関係のある郷土の先人達の幅広い事績を周知できた。 ・収蔵資料の修復と整理、データベース化を継続的に進めることができた。 ・旧渋沢邸「中の家」主屋の管理運営業務を民間に委託し、見学者への対応を円滑に行うことができた。また、委託先事業者による自主事業(スポット実施イベント)が、見学者増につながった。 ・ボランティア団体によるまち歩きツアーは16回開催し、参加者から好評を得た。 ・畠山重忠関連の映画上映会を2回開催し、郷土の偉人・畠山重忠の事績と人物像を広く周知できた。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理を進めるとともに渋沢栄一ゆかりの3施設を巡るスタンプラリーを3回実施し、郷土の偉人を広く周知できた。 ・深谷市HP(デジタルミュージアム、畠山重忠辞典等)にて、情報発信した。 						
総合評価		A		※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない				

最重点事業評価表

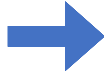
最重点事業名	郷土の偉人顕彰事業	担当課	文化振興課
概要	渋沢栄一翁、畠山重忠公等の郷土の偉人顕彰事業に取り組む。		
令和6年度 の実績	【郷土の偉人顕彰事業】 ・渋沢栄一翁をはじめ、郷土の偉人に関する情報の収集と発信（企画展の開催、資料解説員の配置、収蔵資料のデータベース化、資料の修復、パンフレット等の作成・配布、スタンプラリーの実施等）を行った。 ・渋沢栄一ゆかりの史跡の整備と活用（旧渋沢邸「中の家」及び尾高惇忠生家の維持管理・修繕、案内看板や見学環境の整備、ボランティア団体との協働によるまち歩きツアー、「中の家」にて将棋の王将戦誘致・開催）に取り組んだ。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事の進捗を図るとともに、ホフマン輪窯の一部公開を行い、プレハブでの映像・パネル等の展示を実施した。一部公開初日には新一万円札発行記念としてイベント『煉瓦窯フェスティバル』を開催し、参加者は約3,900人だった。 ・畠山重忠顕彰事業では、献花式や映画上映会を行い、重忠公の事績や事績や人物像を顕彰するとともに、その時代の地域史について広く紹介することができた。 ・深谷市HP（デジタルミュージアム、畠山重忠辞典等）やSNS等を活用して情報発信を行った。また、「論語の里ガイドアプリ」の更新を行い、関連施設来場者の利便向上を図った。		
	○渋沢栄一関連の企画展等の実施回数 5回（渋沢栄一記念館4回、旧煉瓦製造施設1回） ○畠山重忠関連の企画展等の実施回数 2回		
	指標名	実績値	指標別コメント
	企画展等の実施回数	7回	渋沢栄一翁や畠山重忠公の企画展や講演会等を開催し、郷土の偉人に関する事績や人物像を顕彰することができた。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	郷土の偉人・渋沢栄一翁が肖像となった新一万円札の発行にあわせ、企画展やイベント等による情報発信に取り組むとともに、ゆかりの史跡等の整備及び公開活用を図った。今後も郷土の偉人の偉業を伝える事業については、継続した取り組みを行う必要がある。	
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価

基本目標 VII 郷土の歴史・文化の継承と活用

VII-2

<p>施策名</p>	<p>深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用</p>		<p>点検評価表 作成課</p>	<p>文化振興課</p>			
<p>施策の方向性</p>	<p>○文化財の調査・記録を実施するとともに、指定を通じ、保存・活用のための措置を講じる。 ○講座や展示会などの開催を通じて、文化財を活用しながら、歴史・文化の魅力を伝えていく。</p>						
<p>施策に関連する 主な取組</p>	<p>○文化財の調査、保存、管理と活用 ○埋蔵文化財の保存と活用 ○文化財建造物の保存と活用 ○文化財活用の推進</p>						
<p>指標名</p>	<p>無形民俗文化財の後継者育成を行う団体の割合</p>						
<p>指標の説明</p>	<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>
<p>市内の無形民俗文化財の指定団体のうち、後継者育成を行う団体の割合</p>	<p>92.0%</p>	<p>92.0%</p>	<p>92.0%</p>	<p>92.0%</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>92.0%</p>
<p>成果指標の 評価</p>	<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>92.0%</p>			<p>目標値 (令和9年度)</p>	
<p>課題</p>	<p>(横ばい): 基準値に対し横ばい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発協議を経て発掘調査から報告書刊行までを円滑に行う環境を、今後も維持していく必要がある。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事を継続し、展示活用基本計画に基づき、保存と展示活用の両立を図る必要がある。 ・幡羅官衙遺跡の保存と活用を推進し、史跡指定地を公有化し、史跡の整備について検討していく必要がある。 						
<p>評価コメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標である無形民俗文化財の後継者育成を行う団体の割合は、令和5年度と同じ92%を維持することができた。 ・開発に伴う確認調査・発掘調査等は、ほぼ円滑に対応できた。 ・文化財施設の公開・活用は、6月30日よりホフマン輪窯6号窯の一部公開を行い、プレハブでの映像・パネル等の展示を実施した。一部公開初日には新一万円札発行記念としてイベント『煉瓦窯フェスティバル』を開催し、参加者は約3,900名だった。イベント後も映像・パネル展示を毎日実施し、また、輪窯の一部公開を土・日曜日、祝日に実施した。 ・展示活用事業基本計画に基づき、ホフマン輪窯に隣接して建設する管理活用棟の設計業務委託について公募型プロポーザルを実施し、建物の設計を進めた。ホフマン輪窯等展示活用事業・展示設計業務についても一般入札により事業者を決定し、輪窯内の展示内容の設計を行った。 ・旧煉瓦製造施設の保存修理工事(耐震補強工事)の進捗を図るとともに、追加の補修工事の発注業務に取り組んだ。 ・幡羅官衙遺跡については、保存活用計画に基づき、史跡の公有化・整備を行うために関係部署との調整を行うとともに、整備基本計画の策定について検討を行った。 						
<p>総合評価</p>	<p>A</p> <p>※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない</p>						

最重点事業評価表

最重点事業名	日本煉瓦保存活用整備事業	担当課	文化振興課
概要	旧煉瓦製造施設の保存修理工事を引き続き実施するとともに、展示活用基本計画に基づき、ホフマン輪窯6号窯等の公開・展示活用に向けた施設整備に取り組む。		
令和6年度 の実績	【日本煉瓦保存活用整備事業】		
	旧日本煉瓦製造施設の保存修理工事に伴う国庫補助金の交付申請を行った。 ホフマン輪窯6号窯の保存修理工事(耐震補強工事)及び追加の補修工事(煙突補強被覆等)を進めた。ホフマン輪窯6号窯等展示活用基本計画に基づき、展示設計業務と管理活用棟建設工事設計業務を行った。また、令和7年に行う飲食事業者のプロポーザルに向けて検討を行った。 ホフマン輪窯6号窯の一部公開(土日祝日)を行い、プレハブでの映像・パネル等の展示(期間中毎日)を実施した。一部公開初日の6月30日には新一万円札発行記念としてイベント『煉瓦窯フェスティバル』を開催し、参加者は約3,900人だった。		
	○旧煉瓦製造施設見学者数 5,262人		
指標名		実績値	指標別コメント
国庫補助金の交付申請件数		2件	国の予算スケジュールにより国庫補助金の交付申請を行った。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	旧煉瓦製造施設の保存修理工事については、文化庁及び埼玉県と協議を進め、耐震補強工事を実施し、進捗を図れた。また、ホフマン輪窯6号窯等の展示・公開に向けた展示および管理活用棟の設計業務を進めることができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価
文化財活用事業	指定文化財の適正な維持管理を推進するとともに、出土文化財や史跡等の公開機会を設け活用を推進する。 ○文化財企画展示会、発掘調査情報公開・現地説明の実施	文化財の保護を図ることを第一としつつ、市民が歴史や文化財を身近に感じることができるような企画として、企画展示『発掘された古代の幡羅地区』及び歴史講座『深谷城と鉢形城』を実施した。さらに、近隣自治体とも協力・連携して企画展示や体験イベントを開催し、市民の文化財保護への関心・理解を深めることができた。

基本目標 VII 郷土の歴史・文化の継承と活用

VII-3

<p>施策名 文化芸術活動の振興</p>		<p>点検評価表 作成課</p>		<p>文化振興課</p>					
<p>施策の方向性</p>		<p>○多様な文化・芸術に触れることができる機会を拡充する。 ○文化団体などの自主的な活動の推進・支援を行う。 ○市にゆかりのある美術品の収蔵と展示公開を進める。</p>							
<p>施策に関連する 主な取組</p>		<p>○文化・芸術活動の推進</p>							
		<p>○地域における文化活動の推進</p>							
		<p>○市民文化活動の支援</p>							
		<p>○美術品の収蔵・展示公開</p>							
<p>指標名</p>		<p>芸術鑑賞や文化活動を行う市民の割合</p>							
<p>指標の説明</p>		<p>令和3年度 実績値</p>	<p>令和4年度 実績値</p>	<p>令和5年度 実績値</p>	<p>令和6年度 実績値</p>	<p>令和7年度 目標値</p>	<p>令和8年度 目標値</p>	<p>令和9年度 目標値</p>	
<p>深谷市民まちづくりアンケートにおいて、「この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった」と答えた市民の割合</p>		<p>18.7%</p>	<p>27.6%</p>	<p>31.2%</p>	<p>33.5%</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>32.0%</p>	
		<p>基準値 (令和3年度)</p>		<p>18.7%</p>		<p>➡</p>		<p>目標値 (令和9年度)</p>	
<p>成果指標の 評価</p>		<p>(順調)：目標値に向けて順調に推移している</p>							
<p>課題</p>		<p>・幅広い世代が参加できるような事業の企画、実施が必要である。 ・市民による文化活動の活性化を図るため、文化団体の更なる育成、支援方法の検討をする必要がある。</p>							
<p>評価コメント</p>		<p>・新札発行記念事業として、文化会館指定管理者と共催して文化芸術鑑賞事業を実施した。 ・文化芸術事業を実施する団体と連携調整を図り、事業実施に向けた支援を行うことができた。</p>							
<p>総合評価</p>		<p>A</p>		<p>※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない</p>					

最重点事業評価表

最重点事業名	文化振興事業	担当課	文化振興課
概要	市民が芸術文化に触れ、親しむきっかけを作るため文化芸術の体験及び鑑賞事業を実施する。		
令和6年度 の実績	【文化振興事業】 文化芸術体験事業として、伝統文化体験教室を実施し、文化芸術鑑賞事業として、文化公演ミュージカル、親子映画鑑賞事業、高校生作品展等を実施した。 ○文化芸術体験事業 2回 ○文化芸術鑑賞事業 9回		
	指標名	実績値	指標別コメント
	文化芸術体験・鑑賞事業参加者数	6,252人	体験事業は、2回開催した。鑑賞事業は、新札発行記念事業として、文化会館指定管理者と共催して実施した。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	文化振興事業の実施については、文化会館の指定管理者、文化団体等と連携して文化振興を推進していくものとする。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点事業評価表

重点事業名	事業の概要・実績	事業の評価	
文化団体育成補助事業	市民文化活動の担い手として活動している市内の文化団体などに対する事業協力や支援を図る。 ○補助金交付事業数:4事業	自主的かつ主体的に文化芸術事業を実施する団体等に対する支援として、4事業に対し補助金を交付できた。	文化振興課

6 意見・提言のまとめ

No.	施策名	総合評価	意見・提言
I-1(1)	生きる力の基礎を育む幼児教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園児数の減少に伴い計画を見直す必要があると思う。 ・深谷市と加須市は、幼児が減少する中、数多くの市立幼稚園を運営している。幼児数の減少や農村部が多いなど状況や課題が似ていることから、お互い情報交換をし、運営を進めてほしい。
I-1(2)	未来を切り拓くための確かな学力の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標を同一の学年が3年間でどのように変化したのか分かる指標に変更するべきであるため、第4期深谷市教育振興基本計画策定に際しては、成果指標の変更を検討してほしい。 ・全国学力・学習状況調査の本市平均を向上させるには、学力上位層の児童生徒のやる気を喚起し、切磋琢磨させたい。学力上位層の方が伸びやすい点を生かしたい。そして、中位層を上位層まで押し上げたい。 ・今回基準値を下回ってしまった背景をしっかりと検討する必要がある。単年度で成果はでないと考えたい。子供たちが、良い習慣になるような継続的な取り組みを入学時から徹底していただきたい。 ・「学力調査を活用したPDCAサイクルの確立」の担当課評価の評価コメントに「学力向上プロジェクトを中心とした学力向上に向けた施策だけでなく、さらに学力向上の施策を進める必要があると捉えている」とあるが、現状学校は、学力向上の施策が飽和状態である。施策を増やすだけではなく、施策の質を上げて効果を高めるなど、学校にも教育委員会にも過度な負担とならない方法を検討してほしい。 ・目に見えて英語検定3級の取得者が増えることで、中学校の英語教員がやりがいを持って指導することができると思う。 ・規模が大きい学校は競争心が煽られ、英語検定3級以上の取得率が上昇するよう感じる。 ・英語検定3級以上の所得率50%を達成できなかった学校については、至らなかつた点を研究しながら達成できるように注力してほしい。
I-1(3)	郷土深谷を愛し国際性を育む教育の推進	A	
I-1(4)	時代の変化に対応する教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した指導ができない教員が小学校で4%、中学校で5.8%いるが、教員が授業で積極的にICTを活用し、児童生徒の生活を豊かにする考え方を養う必要がある。 ・授業効果の向上のため、教科書、資料、ICTを効果的に活用した教員の指導力向上に努めてほしい。
I-1(5)	夢を育み志を実現するキャリア教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が一生懸命頑張れば報われれば体験を積むことが大切であるため、今後も「社会体験チャレンジ」を地域の力を借りながら推進してほしい。 ・児童生徒に夢を語らせるだけでなく、夢の実現に向けた努力の方向性を児童生徒と教員が共に話し合う機会を設けてほしい。

No.	施策名	総合評価	意見・提言
I-(6)	多様なニーズに応じた特別支援教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は、特別な指導を必要とする児童生徒を自立させるという意識を持ち、障害のある児童生徒の成長を促え、その児童生徒に合った指導をする必要があるため、教員の意識づけに注力してほしい。
II-(1)	まごころと思いやりを育む教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
II-(2)	いじめ・不登校の防止	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについては、発生件数と解消件数を用いた解消率で評価し、不登校については、不登校児童生徒数の推移を評価することで、取組の概要を視覚化できるため、成果指標の変更を検討してほしい。 ・不登校児童生徒に対する取組として、テレナーニングやテレスタデイ等を実施することも効果的である。 ・各中学校に配置されている学校総合支援員の協力のもと、不登校児童生徒が家庭から外へ出る第一歩として、家庭から最も近い小規模な集会所へ足を運ぶよう促すことが重要である。 ・学校総合支援員は、自治会長や主任児童委員を巻き込み、不登校児童生徒への地域の支援体制を一層強化するよう取組を推進してほしい。 ・不登校児童生徒においては、様々なかたちで支援を受けることができているが、不登校児童生徒数が増加してしまっている背景を検討し未然防止につなげる必要がある。 ・今後も、様々な理由により、学校での学習が困難な児童生徒の学びを保障してほしい。また、学校や社会とのつながりが保てるように支援して欲しい。
II-(3)	生徒指導の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
II-(4)	人権を尊重した教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
II-(5)	健康の保持増進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。

No.	施策名	総合評価	意見・提言
II-(6)	体力の向上と学校体育活動の推進	A	・小規模校はチームスポーツで太刀打ちできないため、複数の学校が協力してチームを作ることで、大会での勝利を通じて生徒のやる気を高めることができるよう検討してほしい。
III-(1)	信頼される教職員の育成	B	・教員のなり手不足により、教員採用試験の倍率が2倍を切ったことから、以前に比べると指導力のレベルが低い教員が配置されてきているため、研修等を活用した十分な指導をしてほしい。 ・人事評価制度においては、学校ごとの目標も大事であるが、働き方改革に伴い効率化が重視されるが、こころざしを忘れずに理想の教員になれるように努めていただきたい。
III-(2)	学校の組織運営の改善と地域の核となる学校づくり	A	・学校運営協議会の開催回数、3回では不十分であり、最低4回の開催が必要である。 ・学校運営協議会は、自治会長、民生委員及び地域学校推進委員等の地域の役職を持った方で構成されており、学校長の運営方針の審議が主な役割であることから、学校長、教頭及び主幹教諭だけの出席ではなく、学年主任も出席し、地域の役職を持った方と人間関係を築くことが重要である。 ・「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」が改正され、教職調整額が上昇することや、働き方改革に関する計画や成果について、学校運営協議会に報告する必要があるため、学校運営協議会の積極的な開催について、指導してほしい。
III-(3)	子供たちの安全・安心の確保	B	・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
III-(4)	学習環境の整備・充実	A	・学校適正規模・適正配置については、長期的な視点からの予測と検討を行う必要がある。 ・学校統廃合が行われることにより、廃校となった学校の教員の処遇に関する課題が生じているため、慎重に進める必要がある。 ・全国そして県内でも学校の統廃合が進む中、地域住民が学校の存続について危機感をもってしまいう心配がある。そこで、早期から、時間をかけて説明を行っていく必要がある。 ・児童の減少率、施設の耐久年数、施設修繕に係るランニングコスト等を含め、十分に検討してほしい。
IV-(1)	家庭の教育力向上に向けた支援	A	・今後とも各事業の推進に努めてほしい。 ・児童生徒の健やかな成長には、家庭での教育に拠るところが大きいので、今後も家庭の教育力向上のために尽力してほしい。

No.	施策名	総合評価	意見・提言
IV-(2)	家庭・地域・学校が協力する教育体制の整備	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動推進員については、地域住民に馴染みがなく、趣旨が伝わりづらいこともあるため、公民館運営審議会にて、地域学校協働活動推進員の役割等の説明をしていく必要がある。 ・様々な方法で家庭、地域、学校が協働する教育体制の整備を進めてほしい。 ・学校応援団の活動は、市民の児童生徒に対する学習支援という側面と、市民自身の生涯学習の機会とになっており、地域の教育力向上に繋がっているため、学校応援団の活動をより一層活発化させるための充実した方策を検討してほしい。 ・地域学校協働活動推進員の役割は多岐にわたり、地域のことを熟知していないと務まらないため、副担当を配置し、地域学校協働活動推進員が引退する際に、副担当を次の地域学校協働活動推進員とするような仕組みを作ることを検討してほしい。 ・「がんばル〜ム」を実施する際、公民館の施設及び設備を生かした、多様なプログラムを実施できるよう検討してほしい。 ・「がんばル〜ム」に参加する児童及び「ちいきの先生」の数が減少し、国からの補助金も削られる可能性もあるため、「がんばル〜ム」の効果を検証し、廃止を含めた見直しも必要であるため、今後検討してほしい。 ・公民館職員として、深谷市地域振興財団に採用された若い職員は、長年に亘り公民館に勤務することとなるため、公民館に訪れる利用者又は利用団体の良き相談相手及び支援者となり、長期的な視点に立った支援をしてほしい。 ・深谷市民大学の受講修了者が地域社会へのより一層の社会貢献ができるような実践的なプログラム及びフォローアップ講座等を検討してほしい。 ・自ら地域の課題を発見し、解決に向けた取組を行い、地域貢献していただけた元気な高齢者が増加しているため、様々な支援をしてほしい。 ・地域によって共通する課題があるため、市内北側の公民館同士で連携することや、中心部の連携など、特性に応じた事業展開を行ってほしい。 ・より多くの市民に公民館を利用してほしい。 ・公民館の部屋別の稼働率は、活動目的が限定される部屋の稼働率が低くなっているため、活動率が低い部屋を活用した事業を推進してほしい。
V-(1)	市民のニーズに応える生涯学習の支援	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
V-(2)	生涯学習施設の整備・充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
V-(3)	図書館サービスの充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。
VI-(1)	多様な主体へのスポーツ・レクリエーション機会の創出	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも各事業の推進に努めてほしい。

意見・提言		
No.	施策名	総合評価
VI-(2)	生涯スポーツの推進	A
VI-(3)	スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実	A
VII-(1)	郷土にゆかりのある偉人を生かした取組の推進	A
VII-(2)	深谷が誇る歴史・文化の保存・継承と活用	A
VII-(3)	文化芸術活動の振興	A

・公民館に採用されている若い世代の職員の人脈や情報等を活用し、計画的に若い世代のスポーツ推進員を募集してほしい。

・公民館の事業等で積極的に屋外施設を活用し、スポーツの振興に努めてほしい。

・渋沢栄一翁はじめ、深谷市にゆかりのある偉人を生かした取組を積極的に実施してほしい。

・今後とも各事業の推進に努めてほしい。

・プロの演奏家と市民の音楽団体との共演は、市民の豊かな心を育む良い機会であるため、今後も継続してほしい。

7 むすびに

深谷市教育委員会では、本市教育行政の基本計画である第3期深谷市教育振興基本計画に基づいて、教育行政を推進しています。

令和7年度の点検評価では、第3期深谷市教育振興基本計画の27施策全てを対象に、令和6年度に執行した各施策の点検評価を実施しました。

その結果、27施策中、24施策に対して総合評価「A」（ほぼ計画通りに進んでいる）と評価しましたが、成果指標の実績値が目標値に達しなかった施策のうち3施策に対して総合評価「B」（あまり進んでいない）となりました。

今後も、今回の点検評価で課題とされた点については事業の改善等を図っていきながら、第3期深谷市教育振興基本計画に基づき、目標に向け着実に教育行政を推進していきたいと考えています。また、教育行政の推進にあたっては、教育委員会と市民、地域及び関係機関が連携し、一体となった取組を推進していきたいと考えています。

【点検評価報告書公表までの経緯】

年月日	件名	内容
令和7年 8月21日	第1回点検評価会議 (集合形式)	点検評価報告書(案)の説明 学識経験者である鎌田義夫様、松本浩様 による協議
令和7年 9月10日	令和7年教育委員会 第9回定例会	点検評価報告書(案)の説明 教育委員による協議
令和7年 9月10日 ～9月24日		教育委員から意見・提言の受付期間
令和7年10月 6日 ～10月17日	第2回点検評価会議 (書面形式)	学識経験者である鎌田義夫様、松本浩様 による、点検評価報告書(案)の確認
令和7年11月12日	令和7年教育委員会 第11回定例会	点検評価報告書(案)の議決
令和7年11月21日	公表	

令和7年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発行 令和7年11月
編集 深谷市教育委員会
〒366-8501
深谷市仲町11-1
TEL 048-574-5811
FAX 048-574-1744

